

令和5年度

## 岐阜県青少年赤十字 JRC未来応援プロジェクト指定校活動事例集

青少年赤十字(以下 JRC)では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切に、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』『奉仕』『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの教育現場においては、上記の実践目標と重なる内容の学校経営や教育実践が進められていると思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させていただくとともに、子どもたちが青少年赤十字で大切にしていることを身に付けることを目的に、研究推進モニター校等の募集を行い、助成をさせていただきました。

今年度からは、新たな試みとして以下の趣旨を踏まえ「JRC未来応援プロジェクト」事業を立ち上げ、指定校を選定し実践をしていただきました。

### <事業趣旨>

青少年赤十字では、園児・児童・生徒の皆さんが、地域や世界の人びとの平和や福祉に貢献できるよう、日常生活や学校生活での活動をとおして、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びとの友好・親善の精神を育成することを目的とした活動を推進しています。

この目的達成のためJRC未来応援プロジェクト活動助成金を交付して、子どもたちが**健康・安全やボランティア、国際理解、人権尊重の精神、SDGs**に関する様々な体験活動をとおして「**気づき・考え・実行する**」姿勢を育む活動を応援し、その活動の輪を広げます。

### <R4以前の助成事業>

防災教育推進校
研究推進モニター校
JRC100周年事業推進校



### <R5以降の助成事業>

JRC未来応援 プロジェクト	① 防災活動
	② 健康安全に関する活動
	③ 奉仕や福祉に関する活動
	④ 国際理解親善活動
	⑤ SDGsに関する活動

今年度のJRC未来応援プロジェクト事業では、35の学校・園を指定し、助成をさせていただきました。各指定校においては、創意・工夫をしながら上記①から⑤について、研究実践を推進していただきました。また、子どもたちが活動する際には「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取組にも努めていただきました。

本事例集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさをもった子どもたちが、これからも人道、博愛の精神をもち続け、様々な場で活躍していくことを願っています。

これらの貴重な実践が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践や成果をご紹介いただいた指定校の校長先生方、園長先生方にお礼を申し上げますとともに、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方に心より感謝を申し上げます。

令和6年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社岐阜県支部

※学校名をクリックすると、その学校のページにジャンプします。

各学校の最後にある👉をクリックすると、このページに戻ります。

No	学校名	テーマ
1	山県市立伊自良北小学校	わが町の防災から他人へのやさしさに
2	郡上市立高鷲小学校	『世界の教育について知り、自分たちの学びを高めよう』
3	郡上市立郡南中学校	持続可能な社会の創り手の育成
4	高山市立東小学校	「福祉や防災について学び、だれもが幸せにくらせるまちづくりについて考えよう。」
5	みたけ幼稚園	世界の人びととの友好・親善の精神を育成することにより世界に興味、関心を持つ
6	ながもり第二幼稚園	強い心と体をつくつて正しいくらしをめざそう
7	うぬま第一幼稚園	世界の人びととの友好・親善の精神を育成することにより世界に興味、関心を持つ
8	岐阜市立常磐小学校	自ら考え行動する力を育成するシェイクアウト訓練
9	岐阜市立長良東小学校	命を守る～自分・家族・地域の命を守るように～
10	瑞穂市立西小学校	「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えよう
11	岐南町立北小学校	自分のいのちは自分でまもる
12	大垣市立中川小学校	英語でコミュニケーション能力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成 ～英語教育と国際理解教育を通して～
13	養老町立日吉小学校	自分らしさを大切に、互いの良さや違いを認め合い、共に生活できる子の育成 「自分の命は自分で守る」ことを意識付け、自分で判断し行動できる子の育成
14	郡上市立大和西小学校	「今私たちにできること」高齢者と共に生きる大和町づくり
15	郡上市立牛道小学校	家庭(牛道小PTA、牛道っ子応援クラブ)・地域と連携し、親子の絆・地域の方との絆を深める
16	郡上市立大中小学校	進んで楽しく運動し、自分の体力と能力の可能性や運動そのものの歴史、可能性について考える
17	郡上市立北濃小学校	体験活動をとおして、福祉・介護に関する内容について理解し、その必要性と具体的な操作技能を学ぶ。
18	多治見市立養正小学校	人と人との関わりを大切にする活動を通して、自他の良さや違いを理解し、自尊感情を高める。
19	中津川市立落合小学校	自分ごととしてとらえ、意志のある判断のできる子の育成
20	飛騨市立宮川小学校	ふるさと宮川の宝、池ヶ原湿原を後世に残すために ～ヨシストローづくりから広げる環境保全活動と湿原の魅力発信～
21	下呂市立馬瀬小学校	ふるさと馬瀬の良さや課題に気づき、自分達に何ができるかを考え、他学年や保護者、地域住民の方への発信・提言を行ったり 具体的なアクションを起こせる児童の育成。
22	下呂市立竹原小学校	「知ろう!」「考えよう!」「やってみよう!」ふるさと竹原
23	岐阜市立藍川北中学校	藍川大家族で住み続けるまちづくり
24	山県市立高富中学校	話そう!語ろう!備えよう!私たちの防災教育～ふるさと高富を知って、考えて、そして、守ろう、私たちの命!～
25	山県市立伊自良中学校	授業「柿渋染めで染めよう」で作ったマスクや手ぬぐいを、グリーンビレッジのお年寄りや希望ヶ丘特別支援学校の仲間へプレゼントしよう。
26	大垣市立東中学校	SDGsの「貧困」に関する課題 社会起業家の考え方や行動を学び、社会課題の解決を目指す
27	大垣市立江並中学校	江並中人権宣言を具現し、誰もが安心・安全に生活できる江並中
28	揖斐川町立揖斐川中学校	自分の意思で自己の進路を決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができる能力や態度の育成
29	郡上市立高鷲中学校	地域が誇る高鷲中生～高鷲を考え、高鷲で動く～
30	白川町立黒川中学校	災害、危険回避のための行動と地域社会との共生を目指した活動の在り方
31	羽島市立桑原学園	学校・家庭・地域の三者で学び合い、気づき、考え、実践する防災・減災学習
32	岐阜県立大垣桜高等学校	福祉社会の課題の架け橋に ～自ら考え行動できる人を目指して～
33	聖マリア女学院中学校・ 高等学校	フィリピンの友達の支援や持続可能な社会のために出来ることを取り組む。 ～まごころ募金・物資集め・コンタクトレンズケース回収～
34	高山西高等学校	CO2 モニターを使用し、CO2 濃度の測定、PM2.5・PM10、HCHO・TVOC を休み時間ごとに各クラス保健委員が測定する。教室の窓とドアを全開にて「1 分間換気」を呼びかけ、実施する。
35	岐阜県立下呂特別支援学校	身体を動かそう! ～We can do it～

# 1 山県市立伊自良北小学校

主な実践内容	防災学習
教育課程上の位置付け	総合学習、生活科

## 1 活動テーマ

わが町の防災から他人へのやさしさに

## 2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4 月	<p>キックオフの会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会で本校が J R C に加盟していることや、赤十字等について子どもたちと学んだ。</li> <li>・学校が、土砂災害警戒区域に建っていることや、地域の中には、土砂災害警戒区域があることを学んだ。</li> </ul> <p>命を守る訓練（地震・火事）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震から火災が発生した時の避難の仕方を覚えた。</li> </ul> <p>交通安全教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の歩き方、自転車の乗り方、車と衝突時の衝撃について学んだ。</li> </ul>
5 月	<p>引き渡し訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警報発表時、幼児、児童、生徒を安全に迅速に保護者に引き渡すため、伊自良校区の 1 園、2 小、1 中が、スクールサポーターズ協議会と連携して実施した。</li> </ul>
6 月	<p>シェイクアウト訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もしもの時に、自分の身を守るための行動について学んだ。</li> </ul>
9 月	<p>防災週間 I</p> <p>①命を守る訓練（垂直避難）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の隣接する、すぐ西側の山が崩壊し、学校に土砂が押し寄せている場合を想定し、土砂災害からの避難を目的とした避難の仕方を覚えた。</li> </ul> <p>②防災見学 I</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根尾谷地震断層観察館へ、公共交通機関を使って訪れ、地震の恐ろしさ、メカニズムを学んだ。</li> </ul>
10 月	<p>防災週間 II</p> <p>①命を守る訓練（告知なし）</p> <p>②防災見学 II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが住むところにある 3 カ所の断層を見学し、防災への意識を高めた。</li> </ul>
11 月	<p>防災週間 III</p> <p>①親子防災教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で、学校内の危険箇所、家での危険箇所を一緒に考え、もしもの時の避難の仕方について考えた。</li> </ul>
12 月	<p>わが町の防災からみんなへのやさしさに①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの町の防災を考え、今、自分にできること、家庭で実践できることを見つけ、さらには、日本の防災について考えた。</li> </ul>
1 月	<p>命を守る訓練（不審者対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に凶器を持った不審者が侵入した場合を想定し、避難の仕方を覚えた。</li> </ul>
2, 3 月	<p>わが町の防災からみんなへのやさしさに②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年 1 年学んだことを、仲間に発表し、お互いで学び合った。</li> </ul>

## 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	今自分が何をすべきかを、考え、行動することができる。
今後の方向	学校で学んだことを、家庭、地域にも発信し、防災について非常時にも率先して行動できるようにしたい。



## 2 郡上市立高鷲小学校

主な実践内容	⑤ SDGs に関する活動 (目標 No. 4 質の高い教育をみんなに)
教育課程上の位置付け	社会科、学級活動、通常の授業

### 1 活動テーマ

『世界の教育について知り、自分たちの学びを高めよう』

### 2 主な活動内容

- 4月・キックオフの会 (全校集会で本校が JRC に加盟していることや赤十字等について話を聞いた。)
  - ・社会科の時間 (世界の教育の状況について調べた。)
- 5月・社会科の時間 (世界中には十分な教育を受けられない子どもたちがいることを知った。世界の教育の状況を踏まえ、自分たちに何ができるかを考えた。)
  - ・学級活動、通常の授業 (自分たちの学びを高めるための取組を考え、実践した。授業者は、学びの共同体スーパーバイザーから質の高い学びについて助言を受けたうえで、児童を指導した。)
- 6月・学級活動、通常の授業 (自分たちの学びを高めるための取組を考え、実践した。授業者は、学びの共同体スーパーバイザーから質の高い学びについて助言を受けたうえで、児童を指導した。)
- 7月・教員研修 (令和5年度高鷲小学校自主公開授業研究会を開催した。教育学者の佐藤 学 東京大学名誉教授をお招きし、すべての学級の授業を参観していただき、指導助言をいただいた。また、教員向けに世界各国の教育状況及び「新しい時代の学びの在り方」をテーマに講演していただいた。)
- 10月・学級活動、通常の授業 (自分たちの学びを高めるための取組を考え、実践した。授業者は、学びの共同体スーパーバイザーから質の高い学びについて助言を受けたうえで、児童を指導した。)
- 1月・全校集会 (世界の教育について学んだこと・自分たちの学びで高まってきたことを発表する。)
- 2月・学級活動、通常の授業 (自分たちの学びを高めるための取組を考え、実践した。授業者は、学びの共同体スーパーバイザーから質の高い学びについて助言を受けたうえで、児童を指導した。)

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同する力(「わからなさ」を出発点に、仲間との対話を通し、協同して学びに向かう力)</li> <li>・探究する力(レベルの高い課題にもあきらめずに挑戦し、試行錯誤しながら解決に向けて取り組む力)</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供自身が仲間と学びを高め合おうという思いをもつことが重要なため、子供たちが自らの学びを振り返る場を設ける。そして、子どもたちが学び合いを通して、日常の授業における学びの質を高める取組を続ける。</li> <li>・教員の力量を高めることが子供の学びの質を高めることにつながるため、今後もスーパーバイザーから授業者が授業者に指導助言を受ける機会(授業研究会等)を設ける。</li> </ul>



### 3 郡上市立郡南中学校

主な実践内容	⑤SDGsに関する活動（11, 13, 14, 15, 17）
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

#### 1 活動テーマ

持続可能な社会の創り手の育成

—SDGs×清流長良川 総合的な学習の時間を中核に置いた教育課程の創造—

#### 2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4月	17日…キックオフの会(全校放送でJRCに加盟していることや、持続可能な清流長良川の取組の見通し)
5月	24日…アウトドアフェアⅠ(1年生…清流長良川でアウトドア体験) 長良川河口堰(2年生…建設当時に関わった方を招聘して、河口堰の是非について自分の考えをもつ) 郡上魅力体験満喫ツアー(3年生…郡上市の教育旅行について計画立案から実行・修正)
6月	清流長良川の森・川・海のつながり(1年生…アウトドア企業、林業、漁協の方からの出前講座) 清流長良川の文化伝承(2年生…伝統漁法の一つ鵜飼いについて学び、実際に鵜飼船に乗船)
7月	7日…アウトドアフェアⅡ(1年生…あゆパークにて、長良川システムを学び、友釣り体験) 持続可能な清流長良川の取組(2年生…建設業者の方を招聘し、川底の土砂撤去の現状を知る)
8月	清流長良川の清掃活動(全校…ボランティアを募り清流長良川の清掃活動を行う) 美並夏祭りの企画・運営(全校…ボランティアを募り商工会と協働して出し物の企画から運営に参画する)
9月	20日…アウトドアフェアⅢ(1年生…粥川の森での植林活動、森の利活用) 13日～15日…郡上研修(1年生…清流長良川の上流散策、自然体験) 27日～29日…長良川研修(2年生…清流長良川の河口堰から、ゴミが流れ着く答志島での清掃活動)
10月	美並魅力発信(1年生…これまで体験してきた魅力を発信する方法を計画) 地元企業と持続可能なまちづくりへの取組(2年生…企業と協働して持続可能な取組に参画) 11日～13日…阪神淡路研修(3年生…淡路島パソナでのSDGs農業体験) 28日…GUJOアウトドアウィークで商品化 3年生が参加者をアテンド
11月	取組発表会(全校…これまでの取組とこれからの活動を地域やお世話になった講師の方に発信) 18日…教育旅行提案(3年生…郡上市の魅力体験して学べるSDGsツアーを提案)
12月	美並魅力発信(1年生…これまで体験してきた魅力を発信する方法を計画立案から実行へ) 地元企業と持続可能なまちづくりへの取組(2年生…企業と協働して持続可能な取組に参画) 5日…中間まとめの会開催 22日…美並魅力発信(1年生…来年度入学してくる小学生へ発信)
1月	地元企業と持続可能な清流長良川やまちづくりへの取組(2年生…マルシェ出店の企画) 長良川の水質調査(1年生…郡上市環境課と協働)
2月	地元企業と持続可能な清流長良川やまちづくりへの取組(2年生…マルシェ出店) 長良川の水質調査(1年生…郡上市環境課と協働)
3月	3月16日…郡南マルシェ開催予定

### 3 事業の成果等

#### 子供たちに付いた力

本校で行ったアンケート結果より(肯定的な回答)

- ①「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動にとりこんでいますか。」…81.8%
- ②「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う」…84.8%
- ③「自分には、よいところがあると思う」…87.9%
- ④「将来の夢や目標をもっている」…84.9%
- ⑤「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、派内の組み立てなどを工夫して発表をしていましたか。」…63.6%
- ⑥「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」…90.9%



このような結果からも、総合的な学習の時間を中核において教育課程を編成し、生徒の意識の流れを大切に「フィールドワーク」と「出前授業を効果的に位置付けてきた成果が出ている。特に、良質な体験と多様な他者と協働して探究を行ってきたリアルな学びをしこんできたことが、「地域や社会をよく

するために何かをしてみたいと思う」の回答率が高い要因だと考えられる。

このような取組が、持続可能な社会の創り手の育成につながり、これから本校で学んだ生徒が10年後地域の担い手として活躍してくれることを期待している。

#### 今後の方向

総合的な学習の時間のカリキュラムが固まり、教科等横断的な関連を図った教育課程の構築が今後望まれる。

総合的な学習の時間で身に付けさせたい資質・能力を整理しているところであり、この資質・能力と各教科等の関連を図っていくことができるようにしていくことが、生きて働く資質・能力となっていく。

そのため、今後は資質・能力が教科と総合的な学習の時間が往還できるような教育課程の構築を進めていく。



## 4 高山市立東小学校

主な実践内容 (複数可)	①防災活動 ③奉仕や福祉に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

福祉や防災について学び、だれもが幸せにくらせるまちづくりについて考えよう。

### 2 主な活動内容

#### 1 活動の特色

本校では、地域コーディネーターとの連携や地域のゲストティーチャーの協力により、ふるさと教育に取り組んでいる。地域の歴史や防災、福祉等について学びながら、ふるさとの良さを知り、未来について考える教育を推進している。今年度は、特に150周年記念となる特別な年であり、発信力の育成にも力を入れてきた。

本校が位置する地域には大八まちづくり協議会があり、地域コーディネーターが常駐している。担任や児童とも日頃から関わりが大変深い。綿密な打ち合わせができることで、授業の目的や必要な手立てについて、お互いに共有することができている。また、地域に関わる様々な情報提供が行われている。様々な分野のゲストティーチャーや活動が紹介されることで、目的に応じた授業に近づけることができる。

#### 2 全学年で実施する防災学習

本校では、様々な場面を想定した命を守る訓練を実施している。今年度は、未来応援プロジェクトで購入させていただいたテントを使用して、雨天時を想定した訓練を行うことができた。

また、その他にもまちづくり協議会のご協力により、多くの防災学習が進められている。どの学年でも1度は防災学習を行うようにしており、その他にも、防災クラブ、親子防災教室(全校、学年)が位置付けられている。



命を守る訓練(雨天時を想定)



防災クラブ(パッククッキング)



4年(机を揺らして地震体験)



全校親子防災教室

講師:清流の国ぎふ防災・減災センター  
村岡 特任准教授

#### 3 福祉学習(4年生)

4年生では、「高山の福祉～だれもが幸せに暮らせる町づくり」をテーマに、年間を通して福祉学習を行った。学習課題は次の通りである。

- ・福祉って何だろう
- ・自分の身の回りの福祉を見つけよう。
- ・聴覚障がい者の方のお話を聞こう。
- ・聴覚障がい者で盲導犬を使用している人の話を聞こう。
- ・車いす体験をしよう。
- ・しあわせに暮らせるための工夫をしたまちづくりマップを作ろう。

これらの学習も、多くの場合において、まちづくり協議会のご協力により、様々なゲストティーチャーのお話を聞いたり、実際に体験したりすることが可能になっている。そのため、児童の興味関心の高まりがみられる。また、全校学習発表会では、地域の方や保護者を招き、4年生は福祉についての発表を行った。学んできたことについて工夫をして話し、体験コーナーを設けるなどして、地域の方に発信をすることができた。



聴覚障がいの方から学ぶ



学習発表会（白杖の体験）



義足体験学習

### 3 事業の成果等

#### 子供たちに付いた力

- ・担任が願いを持ち、地域コーディネーターと目的を共有することにより、適切に活動や講師を選択することができ、児童の知りたいという意欲に応えることができた。また、本物に触れることにより、関心や問題意識を高めた。
- ・防災についての知識を得ることができ、訓練や実際の場面で、その知識が生かされている。また、家庭においても、その知識が役立っている。
- ・地域に発信するという一方で、児童の目的意識が明確となった。工夫し、相手にわかりやすく伝えようとする思いを持って発表をすることができた。

#### 今後の方向

- ・現在の充実した学びを今後も継続していきたい。そのために、地域コーディネーターとの連携を続け、教員の異動があっても、毎年継続して活動することを可能にする。
- ・「いのちを守る訓練」では、来年度に向けて、実際の場面が想定できるような工夫をさらに取り入れ、実践的な内容になることを目指したい。



## 5 杉山第三学園 みたけ幼稚園

主な実践内容 (複数可)	④ 国際理解親善活動 ⑤SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	年間通じて保育の活動時間

### 1 活動テーマ

#### (1)国際交流プログラム

こどもたちの国際理解を育むための、海外の幼稚園・保育園とのオンラインを活用した交流プログラムです。ライブだけでなく、相手の国のことを楽しみながら学び、ビデオレターを交換したりします。クイズについて自分で調べたり、相手園への質問を考えたりと、能動的に考え、実行しながら、こどもたちの関心や主体性、探求心を育みます。

#### (2) SDGs プログラム「ちきゅうフレンズ」

動画と振り返り教材、園でのアクティビティをミックスした、幼稚園保育園専用の SDGs プログラムです。世界 3 カ国を舞台にしてデジタル絵本教材と SDGs をまなぶ教材・ワークシートを使いながら、世界の SDGs に関するこどもたちの関心を育みます。また、先生方がうまく進められるようオンラインでの研修も実施します。これらの教材をきっかけにしながら、園での SDGs の活動とも関連させることにより、関心を持つだけで終わらず、実行するところまで学びます。

(2)の SDGs プログラムを月次で計画しつつ、集大成として(1)の国際交流プログラムを行うことで、年間を通じてこどもたちの国際理解というテーマに対して「気づき・考え・実行する」プログラムとして、生きる力を育みたく考えています。

### 2 主な活動内容

毎月、世界の 3 ヶ国の文化・SDGs 学習・アクティビティを先生と一緒に学びました。  
その集大成として、シンガポールの子どもたちとネット回線をつなぎ、交流をしました。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	優しい心と思いやり・資源の大切な使い方
今後の方向	資源を大切にすることを継続し、心の教育を深めていく。

今年度、はじめての取り組みの中で、3つの国のことを学びながらSDGsに取り組みました。

1つ目の「オーストラリアと水」では、晴天が続く気候、シドニーの街並と海の豊かさを知りながら、陸のコアラ、海のウミガメが生きていく上で欠かせない「水」について学びました。そこで、水の大切さを知り、手洗い、うがい、歯みがきをするときの使う水の量を考えるようになりました。

2つ目の「ケニアと生き物」では、ナイロビの発展した街や、街の近くで野生動物を観察できる環境、アフリカの陽気な文化等を学びました。その中で、野生動物ライオン、ゾウ、サイ、キリンなどが直面している実態を知りながら、文化の発展と野生動物の共存について考えました。動物王国ケニアを舞台に「生き物の尊さ」「共存を目指す姿勢」について考えることで、生き物に対する優しい心が持てるようになりました。

3つ目の「シンガポールと人」では、様々な言葉や宗教を持つ人々がいることを学びながら、人々が共に暮らす雰囲気、多国籍な食事、エキサイティングなエンターテイメント等を学びました。そのような中で、なぜ街にゴミがないのか、高層ビルの街並みに並ぶ食べ物はどこから来ているのかなど、アジア随一の先進国シンガポールを舞台に、華やかな「人の暮らし」の裏側に潜む問題を考えました。また、画面を通しての国際交流をすることで、視覚を通し実体験ができ、差別のない豊かな友達関係をきづくことができました。



## 6 上楽学園 ながもり第二幼稚園

主な実践内容	②健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	領域…「健康」「人間関係」10の姿…「健康な心と体」「協調性」

### 1 活動テーマ

強い心と体をつくって正しいらしをめざそう

### 2 主な活動内容

#### (1)園庭での遊びと山登り

園児たちは、登園してから午前保育が始まる1時間余りと帰りの挨拶後の1時間に外遊びやお部屋遊びを行っている。遊具や砂場での遊び、ボールやフラフープなどの用具を使った遊び、草木の中の虫探しなど、少人数で楽しく遊んでいる。また、夏は小プールや園内の川での水遊び、秋は落ち葉やどんぐりを拾っての山歩きなど、季節の遊びを楽しんでいる。1年を通して、元気に遊び、健康な体と強い心を育む園児の姿が見られた。



▲山のぼり

#### (2)歯科の健康づくり

今年度も県立衛生専門学校の看護学科と歯科衛生学科の学生の臨地実習を受け入れた。指導の先生方から、まんがのキャラクターを活用しての歯みがきの仕方を教えていただいた。また、学生さんたちは園児の観察だけでなく、遊びや保育など積極的に園児と関わり、自作の紙芝居を通して、歯磨きの大切さを教えてもらった。園児たちは「食べた後はお家で歯磨きしてるよ」「仕上げはお母さんにしてもらおうよ」「歯ブラシは小さく動かすんだね」などと興味深く反応して、歯磨きへの意欲を高めていた。後日、保護者にも歯の健康づくりについてのお話をする場を設けた。



▲専門学校の紙芝居

#### (3)地域との連携 いもほり活動

長森幼稚園前にある畑での芋ほり体験が3年目を迎えた。5月に苗を植えてもらい茎の部分に土を斜めにさしている様子や葉が茂って土が見えなくなっていく生長の様子を、園児たちはホールの掲示板を通してつかんでいた。

創作の時間に葉や芋を紙に書いたり立体的に作ったりして収穫までに活動を通して楽しみにしていた。11月7日に長森幼稚園に園バスで移動し、一人3つの茎を割り当てとして芋ほり活動を行った。

袋いっぱいに入った大きな芋を抱きかかえ、収穫を喜び合った。「ありがとうの会」では農家のおじさんに、感謝の気持ちを伝えることができた。



▲秋のお芋の収穫

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元氣いっぱい遊びに夢中になる力がついた。</li> <li>・歯磨きの大切さが分かり、毎日の歯磨きへの意欲を高めた。</li> <li>・お世話になった地域の人たちに感謝の心をもつことができた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人の人たちに教えてもらったり自分たちで考えたりして、健康で安全な生活をしようとする意欲を高める。</li> <li>・県立衛生専門学校の臨地実習（歯科衛生科・看護学科）の継続。</li> </ul>



## 7 杉山第三学園 うぬま第一幼稚園

主な実践内容 (複数可)	④ 国際理解親善活動 ⑤SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	年間通じて保育の活動時間

### 1 活動テーマ

#### (1)国際交流プログラム

こどもたちの国際理解を育むための、海外の幼稚園・保育園とのオンラインを活用した交流プログラムです。ライブだけでなく、相手の国のことを楽しみながら学び、ビデオレターを交換したりします。クイズについて自分で調べたり、相手園への質問を考えたりと、能動的に考え、実行しながら、こどもたちの関心や主体性、探求心を育みます。

#### (2) SDGs プログラム「ちきゅうフレンズ」

動画と振り返り教材、園でのアクティビティをミックスした、幼稚園保育園専用の SDGs プログラムです。世界 3 カ国を舞台にしてデジタル絵本教材と SDGs をまなぶ教材・ワークシートを使いながら、世界の SDGs に関するこどもたちの関心を育みます。また、先生方がうまく進められるようオンラインでの研修も実施します。これらの教材をきっかけにしながら、園での SDGs の活動とも関連させることにより、関心を持つだけで終わらず、実行するところまで学びます。

(2)の SDGs プログラムを月次で計画しつつ、集大成としての(1)の国際交流プログラムを行うことで、年間を通じてこどもたちの国際理解というテーマに対して「気づき・考え・実行する」プログラムとして、生きる力を育みたく考えています。

### 2 主な活動内容

毎月、世界の 3ヶ国の文化・SDGs学習・アクティビティを先生と一緒に学びました。

その集大成として、シンガポールの子どもたちとネット回線をつなぎ、交流をしました。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	SDGsを通して、身近な環境に目を向け感じる。
今後の方向	継続的に環境や世界にも目を向け、今できることを子どもたちと考えていき、取り組んでいく。

ちきゅうフレンズの SDGs の教材を使用し、「オーストラリアと水」「ケニヤと生き物」「シンガポールと人」の3つのテーマに取り組んだ。

・「オーストラリアと水」では子どもたちは、水や電気などの資源は限られていることを知り、毎日の生活の中で、手洗い等で、水の出っぱなしや電気のつけっぱなしなど、身近なところから意識し、子どもたち自ら、家庭でも行うようになってきている。また、ウミガメが海のごみを食べてしまうなど、私たちが出すゴミについても学び、ごみはきちんと決まったところに捨てることを学んだ。

・「ケニヤと生き物」では、人と動物が共存して生活する環境に、人が入っていくことで、動物たちが生活する豊かな自然環境が壊されていることを知り、人間と動物が仲良く暮らすためにはどのようにしたらいいのかを話し合った。動物たちの気持ちを考えられ優しい気持ちが持てるようになった。

・「シンガポールと人」ではシンガポールの保育園の子どもたちとオンラインで国際交流を行いました。言葉や気候、遊びが違うことを知ったり、日本のキャラクターが好きなことも分かたり、親しみが持てた。

・シンガポールは様々な宗教や多国籍の人々がいることを学びました。文化は違うことで、人々の暮らしの問題点について考えることができました。

明るい未来に向け、子どもたちと「今できること」を今後も取り組んでいきたいと思ひます。



## 8 岐阜市立常磐小学校

<b>主な実践内容</b>	自ら考え行動する力を育成するシェイクアウト訓練 緊急地震速報を聞いて対応できる児童の育成
<b>教育課程上の位置付け</b>	学級活動 総合的な学習の時間 ほか

### 1 活動テーマ

自ら考え行動する力を育成するシェイクアウト訓練

### 2 主な活動内容

月	主な活動
4 月	4/19 命を守る訓練(想定:授業時の教室)「5秒でポジショニング」 ポイント:担任と一緒にいる教室 潜り込める机が身近にある状態 「動いてくるもの・倒れてくるもの・落ちてくるもの」を確認し、5秒でポジショニング 実際:緊急地震速報→1分間のシェイクアウト→火災発生→第1避難経路の確認
5 月	5/19 シェイクアウト訓練(想定:廊下や階段を移動時)「廊下や階段で大地震が来たら」 ポイント:担任と一緒に移動する廊下や階段 潜り込める机がない 5秒でポジショニング 実際:緊急地震速報→1分間のシェイクアウト→教室で避難行動のふりかえり
6 月	6/21 シェイクアウト訓練(想定:掃除の時間)「掃除の時間に大地震が来たら」 ポイント:身近に担任がいない→自分で考える 潜り込める机があるとは限らない 実際:緊急地震速報→1分間のシェイクアウト→帰りの会で避難行動のふりかえり
7 月	7/18 シェイクアウト訓練(想定:掃除の時間)「掃除の時間に大地震が来たら」 ポイント:身近に担任がいない 潜り込める机があるとは限らない→頭を守る工夫 実際:緊急地震速報→1分間のシェイクアウト→帰りの会で避難行動のふりかえり 防災食を食べてみよう(総合6年)防災食を試食する体験
9 月	9/1 命を守る訓練(想定:授業時の教室)「岐阜市一斉に行う訓練」 ポイント:脱出行動 避難先での集合確認 5秒でポジショニング・しんけんに・ふだんから 実際:緊急地震速報→シェイクアウト→脱出行動→避難先での集合確認→ふりかえり
10 月	10/17 シェイクアウト訓練(想定:休み時間)「休み時間のシェイクアウト」 ポイント:身近に担任がいない 潜り込める机があるとは限らない→頭を守る工夫 実際:緊急地震速報→1分間のシェイクアウト→帰りの会で避難行動のふりかえり
12 月	12/19 シェイクアウト訓練(想定:休み時間)「事前通知なしのシェイクアウト」 ポイント:事前通知なし 身近に担任がいない 潜り込める机があるとは限らない 実際:緊急地震速報→1分間のシェイクアウト→帰りの会で避難行動のふりかえり 避難所設営を工夫しよう(総合6年)簡易トイレ作り・連絡板工夫・運動による健康管理・
1 月	(実施予定)命を守る訓練(想定:掃除の時間)「電気が使えない状態の避難」 ポイント:電気が使えない状態 放送使えない 声による連携 シェイクアウトから避難、脱出行動
2 月	(実施予定)シェイクアウト訓練(想定:掃除の時間)「電気が使えない状態の避難」 ポイント:電気が使えない状態 放送使えない 声による連携
3 月	(実施予定)年間計画の振り返り及び年間計画の作成

### 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	避難行動を工夫しようとする姿勢
<b>今後の方向</b>	登下校や電気が使えない状態における避難行動の工夫(学校職員と児童)



## 9 岐阜市立長良東小学校

<b>主な実践内容 (複数可)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との合同防災訓練（全学年）</li> <li>・防災学習（4年生）</li> <li>・防災講話（4・5・6年生）</li> </ul>
<b>教育課程上の位置付け</b>	学級活動、総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

「命を守る ～自分・家族・地域の命を守れるように～」

### 2 主な活動内容

#### (1) 地域との合同防災訓練

子どもたちは、在校時に災害が起きたことを想定した「命を守る訓練」は何度も経験しているが、学校ではない場所（家庭・地域）で災害が起きた時の訓練はしていない。在宅時に災害が起きた時の避難方法を学んだり、学校が避難所になったときに、自分たちにできることを身に付けたりすることができるよう、自治会連合会主催の防災訓練に学校が参加させていただく形で防災学習を実施した。

当日は、諸団体の防災訓練を参観したり体験したりした。4年生以上の児童は、赤十字奉仕団、水防団、消防団などの団体が設置したブースを回り、学年に応じて、「応急救護訓練心肺蘇生法」「簡易担架作り・運搬訓練」や「バケツ消火リレー」などを体験した。



<心肺蘇生法>



<簡易担架作り・運搬訓練>



<バケツ消火リレー>

#### (2) 防災学習 DIG（4年生）

4年生では、総合的な学習の時間のテーマを「防災」とし、長良川が氾濫したことを想定したDIG（災害図上訓練）を実施した。防災士の方を講師として招き、家が近い児童同士でハザードマップを見て、豪雨の危険性や安全な場所について確認したり日頃の備えや豪雨時の行動を考えたりした。



#### (3) 防災講話『未来をひらく ～つながる命， つなげる命～』

講師：宮城県石巻市立青葉中学校 校長 平塚真一郎 先生

昨年度、一昨年度に引き続き、今年度も東日本大震災でお子さん（当時大川小学校6年生）を亡くされた平塚真一郎先生をお招きし、『未来をひらく～つながる命 つなげる命～』をテーマに命の授業を実施した。

平塚先生からは、様々な思い込み（バイアス）を捨てて最悪の事態を想定し、「命を守る」ことを最優先に考えることやいざという時の避難先や持っていくものを事前に準備することの大切さについても子どもたちに伝えていただいた。



<平塚先生と4・5・6年児童>

### <講演後の児童の感想>

- ・災害が起きてしまったとき、「あなたが避難しないと他の人の命が危険に…」ということにならないように、まず、自分自身の命を守れる場所に避難したり、防災グッズを家に置くなどの対策をしたりして、自分の命を守れるようにしたいと思いました。また、家族と一緒にいないときは、どこに避難するのかを話し合っておくことが大切だと思いました。災害の時に何を優先したらいいのか、様々な思い込みが本当に正しいのかなど、本当にたくさん大切なことを知ることができました。
- ・ぼくは、前まで「ここまでは川の水が来ないでしょ。」「この場所は崩れない。」と思い込んでしまっていたけれど、その思い込みで他人に迷惑がかかると教えてもらったので、空振りでもいいから備えたいと思いました。
- ・ぼくが一番心に残った言葉は「笑顔」です。つらい時こそ笑って、自分だけでなくみんなも笑顔にすることを大切に生活したいです。自然災害はいつどんな時に起きるかわからないので、自分たちのやわらかい頭を使って、未来の命を救いたいです。今日、学んだことをむだにしないように生きていきたいと思います。

### 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・命はかけがえのないものであり、命を守るためには最悪を想定して念のための行動をとることが必要であると、子どもたち自身が実感することができた。また、「自分の命は自分で守る」「空振りOK, 見逃しNG」という意識を高めることができた。</li><li>・災害が起きたときにどのような行動をとるとよいのかを自分で考える力や、災害時に地域の中で自分にできることについて、体験を通して身に付けることができた。</li></ul>
<b>今後の方向</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・来年度も地域と連携して防災訓練を実施する計画である。来年度は保護者にも参加を呼びかけ、地域と家庭と学校が連携して防災について考えていきたい。</li><li>・家族や地域の方と一緒にハザードマップを確認し、校区で起こりうる災害を想定しながら災害に備えることができるようにしたい。</li></ul>



## 10 瑞穂市立西小学校

主な実践内容 (複数可)	① 防災活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えよう

自分たちの身近に起こる地震や豪雨による水害を中心に、危険個所などに**気づき**、避難所生活について学ぶことを通して自分たちに何ができるか**考え**、危険予知や事前対応など身の回りでできることを**実践し**、災害に備える目や実践力を養う。

### 2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4 月	・キックオフの会 ・命を守る訓練①
5 月	・防災学習① 水害・地震はなぜ起こるのだろう ・引き渡し訓練
6 月	
7 月	・防災学習② 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用して
8 月	
9 月	・防災学習③ 岐阜県広域防災センター訪問(地震体験・消火器訓練体験) ・防災学習④ 清流の国ぎふ防災・減災センターの村岡先生による出前授業(減災のための視点づくり) ・命を守る訓練②
10月	・シェイクアウト訓練
11月	・防災学習⑤ 防災キャンプ (避難所模擬体験学習)
12月	・防災学習⑥ 校内防災点検・危険な所にメッセージカードを貼り付けよう
1 月	・命を守る訓練③ ・防災学習⑦⑧ 地震に強い建物・身近なもので命を守ろう
2 月	・防災学習⑨ 巣南中学校との交流学習
3 月	

- ・シェイクアウト訓練は、市の訓練日（Jアラート）に合わせて、その都度実施しました。
- ・11月の防災キャンプにおいて、市の防災担当（市民協働安全課）と連携して体験学習を行いました。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>自然災害の中でも地震について危険箇所などに<u>気づき</u>、避難所生活について学ぶことを通して自分たちに<u>何ができるか</u> <u>考え</u>、危険予知や事前対応など身の回りでできることを<u>実践</u>し、災害に備える目や実践力を養うことができた。</p>
今後の方向	<p>今年度は、岐阜県広域防災センターを訪問して、地震や消火器使用の体験をすることができた。感染症対策によりこの数年間は座学中心で知識に偏りがちであったが、子どもたちが実際に体験することを通して、自然災害の恐ろしさと対策の必要性を強く感じ、防災・減災の知識をより深く理解し感覚を磨くことができた。実際に、強い地震に備えて学校内の危険箇所を子どもたちなりに精査して、メッセージカードというスタイルで学びの成果を情報発信することができた。</p> <p>また、正月に発生した能登半島地震を受けて、自然災害の脅威を改めて実感した子どもたちのみならず保護者の間にも、いつ発生するかわからない自然災害に向けて日頃から備える心構えが一層強くなった。PTAから全児童に向けて、災害発生時に利用できる物品を年度末までに配付して、各家庭での備えにするとともに家庭における防災・減災の意識高揚を図ろうとしている。</p> <p>このような個人・家庭・地域での災害に備えようとする意識の高まりを受けて、防災学習を来年度も継続して、子どもたちから全校に向けた防災学習の成果の発信や、日常生活における減災の取り組みを進めていきたい。</p>



## 11 岐南町立北小学校

主な実践内容	健康・安全活動を全校で取り組む
教育課程上の位置付け	特別活動（命を守る訓練）・総合的な学習の時間 等

### 1 活動テーマ

自分のいのちは自分でまもる

### 2 主な活動内容

- (1) 災害時を想定した避難訓練を年に3回以上実施する。
  - ・様々な非常災害に対応した「命を守る訓練」を実施した。  
地震・火災・洪水（垂直避難）・ブラインド訓練
- (2) 専門家や岐南町の防災担当を招いて、防災・減災授業を行う。
  - ・地域のハザードマップや想定される災害状況を知る。
  - ・災害に備える町の取組や準備について知る。
  - ・自分たちにできることを考え、準備をする。
- (3) 教職員・保護者を対象に、消防署員によるAED講習を実施する。
  - ・PTA家庭教育委員会を中心に保護者に呼びかけ、教職員・保護者によるAEDの使用を含めた救急救命講習を実施した。
- (4) 教職員を対象に、警察署員による不審者対応訓練を実施する。
  - ・教職員を対象に、実際に不審者対応を踏まえた検証を行い、警察署員からの指導助言を受けた。



「不審者対応訓練」



「命を守る訓練（ブラインド訓練）」

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時に、状況に応じて判断して、自ら考え行動する力</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが生活する環境について、想定される災害などについて気付き、防災・減災の在り方を考え、行動に移そうとすることができるようにする。</li> <li>・身の回りの環境や人とのつながりを知り、自分たちに何ができるかを考え、仲間や家族、地域とともに環境を作り出そうとすることができる。</li> </ul>



## 12 大垣市立中川小学校

主な実践内容 (複数可)	国際理解・親善について全校で取り組んだ
教育課程上の位置付け	教科、総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

英語でのコミュニケーション力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成  
～英語教育と国際理解教育を通して～

### 2 主な活動内容



(姉妹校であるオーストラリアのコーフィールド小学校の児童との交流)

- ・全校児童が学年の発達段階に応じて、オーストラリアの姉妹校との交流活動(オンライン)を行う。外国の文化・習慣・遊びなどを知るとともに、日本の文化・習慣・遊びを分かりやすく伝え、国際理解を深める
- ・英語科・英語活動及び英語のモジュール学習で、生活科や総合的な学習、行事等とのつながりを生かした教材を開発し、コミュニケーション力を高める授業を実践する。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的に授業を進めることで、児童のより主体的な学びにつなげることができた。</li> <li>・コーフィールド小学校の児童との交流のために、他国の衣食住や文化などについて進んで調べ、理解した上で、日本のどんなことを伝え、どんな質問をしようか考えることができた。</li> <li>・対話がより伝わりやすくなるように、タブレットに絵や写真を載せ、授業の中で活用することができた。</li> <li>・モジュール学習では、実践的な英語を体験できるように、ALTを中心に日本にはない外国特有のイベントや外国の物語を紹介した。「クリスマス」や「ハロウィン」については、内容が国によって違うことを理解することができた。そして、「もっと外国の文化について学んでみたい」「そんな考えもあるのだな」という思いをもつことができた。</li> <li>・各クラスに在籍している外国籍の児童に対して、偏見をもたず、どんな言語で文化があるのか積極的に聞く姿が見られた。</li> <li>・外国の文化を知ることで、日本の文化のよさを再確認し、大切にしていこうとする姿が見られた。</li> <li>・外国のよさを知り、諸外国の文化や生活様式を調べることに對して、意欲・関心を高めることができた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの成果が上げられたので、姉妹都市との交流は、来年度も引き続き行っていきたい。</li> <li>・音声と文字のつながりに気付くモジュール学習の番組づくりに努め、楽しく参加でき、実践的な英語を体験できる場を作っていきたい。</li> <li>・インターネットによる交流活動をさらに工夫し、外国の文化などの体験的理解や日本の文化を発信できる場の設定と活動の工夫をさらに進めていきたい。</li> <li>・来年度、コーフィールド小学校の児童が本校に来校して交流する計画がある。</li> </ul>

## 13 養老町立日吉小学校

主な実践内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTQの講習会（全学年）</li> <li>・「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した防災学習（高学年）</li> <li>・防災教室（5年）</li> </ul>
教育課程上の位置付け	学校行事，総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

- ◎自分らしさを大切にし，互いの良さや違いを認め合い，共に生活できる子の育成
- ◎「自分の命は自分で守る」ことを意識付け，自分で判断し行動できる子の育成

### 2 主な活動内容

#### ひびきあい集会 【LGBTQ 講話～自分らしさを大切にしよう～】

養老町主幹教諭の先生から「自分らしさを大切にしよう」をテーマに，講話を聴いた。講話の中で，北九州教育委員会作成のLGBTQに関する動画を視聴した。本当はかわいいものが好きなオオカミくんが，仲間から見た目のイメージで判断されてしまい，本当のことが言えなくなってしまう内容だった。動画視聴後の講話の中で，性には，「見た目の性」「心の性」「好きになる性」の3種類があり，その性は一人一人違うのだという話を聞き，オオカミにどんな声掛けをしたらよいか考えた。



児童は，「生まれた時の性だけでなく，心の性があるということを知りました。いろんな思いをもっている人がいるから，その人の考えを否定するのではなく，受け入れて平等に接することが大切だと思いました。」「私は人を見た目で男や女と判断するのではなく，相手が自分のイメージや印象と違ってちゃんと受け止めて，お互いを大切にし，私も「自分らしさ」を大切に生活していきたいです。」という受け止めをし，自分の生活に生かすことを考えられる子が増えた。

#### 防災学習（5年）

中部地域づくり協会の防災講座で，主に，線状降水帯について，ハザードマップについて，自宅での避難行動について，非常食・備蓄品の準備について，家族との避難先について学習した。また，海面（水面）の上昇実験や，ペットボトルを使ったウォータートルネードの実験を通して，災害の仕組みやその恐ろしさを実感した。災害から身を守るために自分にできることは何か，真剣に考えていた。



授業後は，「水が少しあっただけでも歩けなくなるし，何かが飛んで切れることもあるのを知って怖いと思った。改めて避難するところを考えたいと思った。」「台風や大雨でも危険なことが分かったので，普段から家族と避難場所を確認し，近づいてきたらいち早く逃げて，自分の命を守りたい。」という感想を書いた。この学習を機に，自分たちの住む地域に起きた災害を調べたり，これから災害が起きた時にどうするか考えたり，子どもの防災に対する意識が高まった。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎LGBTQについて学んだことは，子どもが「自分らしさとは何か」を考えるきっかけになった。また，一人一人に違いがあることに改めて気付くことができ，自分と周りの人が，お互いに自分らしく生きることを目指していきたいという願いをもつことができた。</li> <li>◎防災について学んだことを，自分事として考え実践する子が増えた。家庭で防災リュックを作ったり，保護者との待ち合わせ場所を決めたりしたという声を多く聞いた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎LGBTQについて正しく理解することは，子どもだけにとどまらず，保護者や地域の方々にも広めることが大切である。学校と地域が一つになって人権を大切にすることの一つとして，継続して取り上げていきたい。</li> <li>◎命を守る訓練での学びが，今回の防災学習につながり，さらに社会科「防災のために自分にできること」の学習で，「自分の命は自分で守る」意識を高め，災害時には自分で判断し行動できる子に育つ。繰り返し学び，子どもが自然に判断して行動できるようになるまで，防災学習や命を守る訓練を続けていきたい。</li> </ul>

## 14 郡上市立大和西小学校

主な実践内容 (複数可)	福祉に関する講話や体験活動から学ぶ。 地域の防災
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

「今私たちにできること」高齢者と共に生きる大和町づくり

福祉体験をしたり、地域の防災について調査したりする活動を通して、誰もが幸せに暮らすことができる社会の在り方や、自分たちにできること・自分の将来について考え実践することができる。

### 2 主な活動内容

#### (1) 福祉体験講座

##### ① 高齢者疑似体験

##### ② 視覚障がい疑似体験

高齢者や視覚障がいの疑似体験を通して、その不自由さを体感し、必要なサポートやよりよい介助について考えた。

##### ③ 車いす体験 車いすバスケット体験

車いすについて学び、実際に乗って動かしたり人が乗っている車いすを操作したりする体験を通して介助の仕方を学んだ。

#### (2) 子ども認知症サポーター養成講座

認知症について理解を深め、自分たちにできるサポートについて考えた。

#### (3) 人権福祉の話と体験

##### ① ボッチャ選手の話とボッチャ体験

車いすのボッチャ選手と一緒にボッチャを行ったり、実際の生活や活動の様子、それに対する思い等の話を聞いたり質問したりして理解を深めた。

#### (4) 防災教室

避難所設営ゲーム「HUG」を体験し、誰もが安心して過ごせるための避難所の在り方について意識を高めた。



高齢者疑似体験



防災教室 HUG

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者や視覚障がいの疑似体験や車いすに乗ったり扱ったりする体験をし、その不自由さを理解することで自分たちにできるサポートや相手に合ったよりよい介助について考えることができた。</li> <li>・ 高齢者や障がいのある方の暮らしについて理解し、正しい人権感覚をもつことの大切さについて考えを深めることができた。</li> <li>・ 認知症や高齢者、視覚障がいについてや防災について学んだことを通して、いろいろな人が共に生きる社会だからこそ、相手を理解して思いやることが大切であると考えることができた。</li> </ul>
今後の方向	<p>地域の高齢者施設での高齢者との交流がコロナでストップしていたが、再開させることができたので、学びを実践につなげていきたい。</p> <p>今後も福祉に関わる体験的な活動や障がいのある方の話を聞く等の学習を通して、社会の一員として自分にできることについて考えたり、自分の生き方について振り返ったり前向きに考えたりしていきたい。</p>



## 15 郡上市立牛道小学校

主な実践内容 (複数可)	<b>「深めよう地域の絆 育ちよう進んで働く心 見守ろう地域の子どもたち」</b> ~すべては、子どもたちのために!~ ・ P T A (牛道っ子応援クラブ) との連携
教育課程上の位置付け	・ 特別活動 (学校行事)

### 1 活動テーマ

家庭(牛道小PTA、牛道っ子応援クラブ)・地域と連携し、親子の絆・地域の方との絆を深める

### 2 主な活動内容

☆スローガンに込めた思い

令和3年度より、P T A活動を見直し、「牛道っ子応援クラブ」が発足され、学校・保護者・地域が協力して、子どもたちのために共に考え創り上げていく活動になりました。「楽しいP T A活動」、「参加したくなるP T A活動」にしたいと考えました。そのために、保護者や子どもたちから「こんなことができれば楽しいよね。」「この活動、家族や地域の人と一緒にできないかな。」などの多くのご意見を聞きながら、保護者の方や地域の方のボランティアで活動を進めてきました。

(1) 子どもたちのため、学校のために、奉仕活動を行う。

① 年1回、奉仕作業(親子)を行います。

※資源回収は行いませんが、常時回収を行っています。1ヶ月に1回、業者回収があります。

②学校の教育活動に協力する。

・登下校の見守り、スキー教室の講師や補助などに、ボランティアとして積極的に参加する。

③学校の教育活動に、参加する。

・学校行事、授業参観、P T A活動(牛道っ子応援クラブ主催の活動)に参加しましょう。

(2) よりよい家庭生活習慣をつくる。

①家族や地域で、あいさつをする。

②早寝・早起き・朝ご飯を実践し、健康的な生活のリズムをつける。

③読書や遊び、手伝いなどを一緒にする。

(3) 子どもの安心・安全を守る。

①いつでも、だれにでも、どこでも、地域の子どもの声をかけ、交通事故や連れ去り、不審者による被害、災害時の登下校での危険や被害に遭わないように、見守り活動をする。

②地域の方に進んで声をかけ、子どもを見守るお手伝いのお願いやお礼を言う。

③地域の行事や公民館活動に、進んで参加する。

④パソコンをはじめ携帯電話やゲーム機などインターネットに接続できる機器を利用するときのトラブルから、子どもたちを守るために家庭のルールづくりを積極的にする。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	親子での奉仕活動を通して、地域の方や保護者の方と協力して学校を美しくしようという意識が高まった。
今後の方向	今年度の活動を通して、学校と家庭・地域との絆が強まった。さらに活動を工夫改善を重ね、児童が地域を愛する心を育てるとともに、地域の方に学校の教育活動に参加・協力しようという気風を作っていきたい。



## 16 郡上市立大中小学校

<b>主な実践内容</b>	②健康安全に関する活動    ④国際理解親善    ⑤SDG sに関する活動
<b>教育課程上の位置付け</b>	体育の時間    特別活動の時間    総合的な活動の時間

### 1 活動テーマ

進んで楽しく運動し、自分の体力と能力の可能性や運動そのものの歴史、可能性について考える

### 2 主な活動内容

(1) 命を大切にする活動…防災トレーニング、命を守る訓練、親子AED講習会、SOSの出し方講座

「自分の命は自分で守る」を合言葉に、防災教育の充実を図っている。5月・6月は「地震災害への備え」、7月は「豪雨災害」、9月は「落雷への対応」11月は「災害への備え」、12月・1月は「雪害や積雪時の避難」について学習した。特に本校は、土砂災害警戒区域に隣接しているため、命を守る訓練では「垂直避難」を実施した。



**AED講習会の様子**



**着衣泳の様子**

また、日本赤十字社岐阜県支部の講師の方による「親子AED講習」を実施した。今年度は学校での水泳指導を再開することができた。そのため、水の事故に遭遇した際に、自信をもって対応し、救助活動ができるよう親子でAEDの使い方や救助についての講習を行った。水泳指導の中で、着衣泳の授業も行い、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることもできた。

スクールカウンセラーによるSOSの出し方についての授業を6年生で実施した。自分の心の状態を自分が知ること、SOSを発信することを迷う必要はないことなど、わかりやすく教えていただいた。これもまた「自分の命は自分で守る」ことにつながるということに気づくことができた。



**SOSの出し方講座**

(2) 進んで楽しく運動する活動…6年生親子行事(講師によるバランスボール運動)

楽しみながら進んで運動できるよう、バランスボールを使った体幹を鍛える運動を親子で実施した。体力メンテナンス協会のバランスボールインストラクター・体力指導士・産後指導士である講師から、姿勢を整えることの大切さを学んで、姿勢の整え方を指導していただいた。指導していただいたのは、バランスボールを使った簡単な運動だったので、学習後も過程で実践しやすいと感じた。

〈学習後の感想〉

- 普段使っていない筋肉を使っている運動ができたことを実感することができた。とても楽しく運動することができた。(6年生 児童)
- 久しぶりに学校で子どもたちとともに、楽しく活動することができ、うれしかったです。バランスボールは家にもあるけれど、あまり活用できていなかったのので、教えていただいたことを家でもやってみたいです。(6年生児童の保護者)
- はじめはみんな緊張していたが、だんだんと子どもたちも保護者も笑顔になっていき、運動が苦手な方もとりかかりやすく、みんなが楽しみながら積極的に活動できてよかった。しかも普段は使わないような筋肉を使うことができたと感じた。(6年生担任)

### (3)地域の伝統的な踊りとその伝承…郡上踊り・白鳥踊り、大中小ソーランなど

市内には、ユネスコ無形文化遺産にも指定された郡上踊りや、町内に伝わる白鳥踊りが夏になると催され、校区の夏祭りでも踊りコンクールが実施されている。そこで、その両方の踊りの保存会の方による踊り講習会を実施し、地域の夏祭りでの踊りコンクールの課題曲でもある曲目について指導していただいた。その結果、多くの児童が夏祭りのコンクールにも参加し、地域の祭りも盛り上がり、多くの児童が楽しむこともできた。



地域の夏祭りの様子

また、地域のことを歌詞にした「ソーラン節」のダンスを地域のダンス講師の方に習い、運動会で表現運動として保護者や地域の方に披露した。郡上踊りや白鳥踊りとはかなり曲調も異なり、地域のこ



運動会での発表の様子

とが入った歌詞も楽しみながら「大中小よさこいソーラン」として完成させ、運動会で保護者や地域の方々に発表した。地域のダンスインストラクターの方に教えていただき、楽しみながら練習に励み、演技として完成させることができた。

## 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	<p>健康安全に関する活動では、具体的な場面での行動について考えることができ、AEDの使い方についても学んだことでいざというときにどう行動すべきかを知ることができた。</p> <p>進んで楽しく運動する活動や伝統的な踊りとその伝承では、運動や表現活動の楽しさを知り、進んで活動することができた。また、地域の行事への積極的参加につながり、改めて地域のよさを知り、愛着をもつことができた。</p>
<b>今後の方向</b>	<p>健康安全に関する活動については、継続的に行っていく必要があるため、「自分の命は自分で守る」という考えに基づいて、今後も計画的に行っていきたい。</p> <p>進んで楽しく運動することについても、子どもたちの体力の低下などが懸念される状況もあるため、子どもたちが自分から運動したり表現したりできるよう手軽な運動や地域の伝統文化である踊りに触れる機会を今後も設定したい。</p>



## 17 郡上市立北濃小学校

主な実践内容	福祉活動について、4年生が中心に学習に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

体験活動をととして、福祉・介護に関する内容について理解し、その必要性と具体的な操作技能を学ぶ。

### 2 主な活動内容

#### ① 認知症学習

今年度の北濃小学校の児童は、祖父母との同居、あるいは近所に住んでいる家庭の率が高い。また、日頃の登下校時にも見守り隊として、日々、児童の安全性維持に携わってくださる方が多い。こうした北濃小学校の実態も踏まえ、やがておとずれる高齢化社会が自分の身近な問題となる実情を受けて、高齢者のさまざまな認知症の症状を知り、認知症を患った方との適切な接し方を体験し、認知症サポーターとなれるよう取り組んだ。

#### ② 手話の学習

児童の周辺には、コミュニケーションを取る際に手話を必要とするケースはほとんどない。しかし、福祉を充実させる社会のあり方を学ぶ中で、手話による相互理解の手段を学ぶことの値打ちを理解することができた。当日は、手話サークルの方々に来校いただき、ほぼ無言の状況で、手話の基本的な成り立ちから日常会話に利用される手話の手指や腕の動き方の講習を受けた。

#### ③ 車椅子体験

児童の中には、ケガで松葉杖や車椅子を利用した経験がある子もいる。そうした事例を取り上げながら身体に障がいを持つことで人にはどんなストレスが生まれるのかを分類して理解することによって、現在の社会には多様な車椅子が開発され、利用されていることを知った。また、実際に車椅子に乗ったり、介助の操作をしたりする相互体験をととして、言葉だけでは伝わらない介護者への思いやりの大切さを実感することができた。



① 認知症学習の場面



② 手話学習の場面



③ 車椅子体験の場面

#### ④ 盲導犬学習（オンラインによる全国一斉盲導犬教室に参加）

校区内では、盲導犬を利用している実態はない。特に今年度は諸事情により、直接該当者の方の講話を聞くことができなかったため、オンラインによる講習の受講となった。盲導犬の育成や対応、そして周囲の人の接し方がいかに重要であるかを学んだ。

### ⑤ 点字学習

国語の学習では、点字に関する教材がある。その学習を発展させ、外部講師による点字学習の機会を持った。健常な児童は日常的に設置されている点字には気づくことが少なく、意識もしていない。そこで、路面や壁の点字など、地域施設に設けられている事実を知るとともに、点字サークルの方々による点字の書き方、文章の基本的な作り方の講習を受けた後、自己紹介の名刺づくりに取り組んだ。

### ⑥ 高齢者疑似体験

高齢者の方の困り感をつかむことはむずかしくない。しかし、実際にどのくらいの困り感であるかは、自ら体験することによって実感できる。そこではじめて具体的なストレスの度合いの理解が深まる。今回、社会福祉協議会から疑似体験キットを借用し、廊下や階段の歩行、日常的に行う箸の操作や財布からの小銭の出し入れなどの動きを体験した。体験中に危険を感じるケース、うまくできなくてイライラが募るケースなどの感想を持つ児童が多かった。



④ 盲導犬教室の場面



⑤ 点字学習の場面



⑥ 高齢者疑似体験の場面

## 3 事業の成果等

### 子供たちに付いた力

この社会にはたくさんの障がいがあることを知り、障がいがある人も快適な生活ができるような社会にすることの大切さを知った。また、障がいの種類により、不便さが異なり、それぞれのサポートが必要であることに気づいた。その気づきをもとに、児童自身が相談して学習したことを2種類ピックアップし、それを15分間程度の劇に仕上げ、全校行事の場で発表することができた。

### 今後の方向

今年度は昨年度以上に多様な障がいに対する学習機会を設けることができた。一部、諸事情で地元団体の盲導犬学習が開催できなかったため、来年度は地域の理解と協力を得て、同様の学習機会が企画・準備できるよう依頼をしていく。



## 18 多治見市立養正小学校

主な実践内容 (複数可)	福祉やボランティアの心を育む地域の方との交流活動
教育課程上の位置付け	特別活動

### 1 活動テーマ

人と人の関わりを大切にする活動を通して、自他の良さや違いを理解し、自尊感情を高める。  
『福祉やボランティアの心を育む地域の方との交流活動』

### 2 主な活動内容

#### (1) 校区のまちづくり市民会議の方々と一緒に取り組んだ花いっぱい運動

年に2回(5月、10月)、校区の地域のまちづくり市民会議と小学校が協力して、校区に花を贈るための『花いっぱい運動』を行っている。花の苗からではなく、種まきから始めて苗を育て、ポットに植え替えてから地域に届ける活動である。学校では、5、6年生の美化委員会の児童だけでなく全学年からボランティアを募って取り組んできた。また、水やり等の世話も児童や職員で進めてきた。ありがたいことに、土日や夏休みなどは地域の方に世話をしていただけることができた。

また、夏休み前には日頃お世話になっている『子ども110番の家』の方に、感謝の言葉を添えて育てた花を渡す活動も行うことができた。



【花の種植えの様子】



【育てた花を贈る準備】



【子ども110番の家の方に渡す様子】

#### (2) 地域のボランティアの方と一緒に取り組んだ運動会前の運動場の草取り

10月の運動会に向けて、学校運営協議会の方に、運動場の草取りの協力を依頼した。その結果、保護者も含めた約20名の地域の方の草取りボランティアに集まることができた。朝の涼しい時間に草取りをしていると、「ありがとうございます。」と声をかける児童や、「一緒にやります。」と言って地域の方と一緒に草取りを始める姿も見られた。こうした児童の姿を目にして、地域の方々に喜んでいただくことができた。



【地域の方と一緒に草取りをする様子】

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動を通して、地域の方の願いや思いに気づき、感謝する心が育った。</li> <li>・地域の方に感謝を伝える活動や、地域の方と一緒に活動に取り組むことを通して、ボランティアの価値に気づき、進んで実行する姿勢や力が育った。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科のまち探検や、総合的な学習の福祉学習などにおいて、地域の方との交流を更に充実させて、地域の一員としての自覚を高め、ボランティアの心を育んでいきたい。</li> </ul>



## 19 中津川市立落合小学校

主な実践内容 (複数可)	①防災活動 ②健康安全に関する活動 ③奉仕や福祉に関する活動
教育課程上の位置付け	・総合的な学習の時間 ・社会科 ・ 学級活動

### 1 活動テーマ

自分ごととしてとらえ、意志のある判断のできる子の育成

### 2 主な活動内容

- (1) 安全ボランティアの会  
自分たちの安全が地域に守られていることに気づくとともに、事故に遭わないための行動を考えた。
- (2) 交通安全教室  
リーダーの役割と集団登下校時の班旗の使い方、横断時の安全な行動について学んだ。
- (3) なかよし掃除  
縦割り学年による掃除を週1回実施し、掃除の大切さを下級生に伝えていった。
- (4) 命を守る訓練  
休み時間に地震、火災が発生したことを想定して訓練を行った。
- (5) 社会見学  
名古屋市港防災センターにおいて、地震や洪水、暴風などによる災害の状況を知るとともに、防災、減災に役立つ生活の仕方考えた。
- (6) 防災教室  
落合地区社会福祉協議会、防災士、PTA が講師となって活動した。  
低学年：自然災害の様子を学び、災害時の危険体験、新聞スリッパ作りを行った。  
中学年：避難の様子を学び、避難時に必要なことを考え、簡易トイレを制作した。  
高学年：自然災害による地区の危険箇所を防災マップなどから読み取り、DIGを行った。
- (7) 福祉体験  
県立坂下高校福祉科を訪問し、高校生講師による障がい者や妊婦の疑似体験を行った。訪問後、事後学習として自校でも体験キットを使って高齢者疑似体験を行った。
- (8) 地方自治（地域づくり）  
自分たちの地域をみつめ、よりよい地域にするための要望書を自治体（市）へ提出した。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身の回りの事象に関心を持ち、事象を自分事としてとらえて、主体的に思考判断、行動ができる力が身に付いてきた。</li> <li>2. 身の回りの事象に対して「気づき・考え・実行する」児童が増えてきた。</li> </ol>
今後の方向	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学びを積極的に地域に広めていくこと。</li> <li>2. 集団共通のテーマ（課題）とともに、個のテーマを設定することで、個の探究的な学習をいっそうすすめる。</li> </ol>



## 20 飛騨市立宮川小学校

主な実践内容 (複数可)	⑤SDGsに関する活動 (目標 No. 14 海の豊かさを守ろう、No. 12 つくる責任つかう責任)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

ふるさと宮川の宝、池ヶ原湿原を後世に残すために ～ヨシストローづくりから広げる環境保全活動と湿原の魅力発信～

### 2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4月	令和5年1月の勝山市立平泉寺小学校との交流で見出した問題意識をもとに、活動計画を立てる。池ヶ原湿原における現地調査。魅力と保護活動の現状を学ぶ。
5月	池ヶ原湿原の魅力について調査。
6月	キックオフの会 池ヶ原湿原における現地調査。池ヶ原湿原のヨシについて学ぶ。
7月	立命館大学経済学部寺脇ゼミの学生からヨシストローによる環境保全活動について学ぶ。
8月	
9月	ヨシストロー作り
10月	池ヶ原湿原における現地調査。ヨシの刈り取り。  調査報告プレゼンの作成
11月	
12月	12月現在までの報告を、飛騨市探究フェスでプレゼン発表し、環境保全活動と池ヶ原湿原の魅力を発信する。
1月	
2月	環境保全活動と池ヶ原湿原の魅力を発信する。 調査報告として、勝山市立平泉寺小学校とのオンライン交流でプレゼン発表。 調査報告として、学習発表会の場で宮川町の地域の方にプレゼン発表。
3月	調査報告として、飛騨市長へプレゼン発表する。 新たな踏み出しとして、ヨシから「ヒンメリ」をつくる活動を行う。

宮川町が誇る池ヶ原湿原を、年間を通して探究した。池ヶ原湿原保護センター長岩佐氏、立命館大学経済学部教授寺脇氏を講師として招き、「池ヶ原湿原の魅力と現状」「ヨシストローによる持続可能な社会に向けた啓発（環境保全の啓発）」について学びを深めた。

## 具体的な学びの過程

- ①令和4年度、同じ池ヶ原湿原がある勝山市立平泉寺小学校（福井県）とオンライン交流。持続可能な社会に向けた環境保全活動の取り組みの一つ、「ヨシストロー」に出会う。
- ②「池ヶ原湿原のヨシを使って持続可能な社会に向けた環境保全の啓発ができないか。」という思いをもつ。一方で、そもそも池ヶ原湿原を深く知らないことにも気付く。
- ③「①池ヶ原湿原にはどんな魅力や課題があるのだろうか。」「②池ヶ原湿原のヨシを使って持続可能な社会に向けた環境保全の啓発はできるのか。」という探究課題を設定。
- ④①では、春、初夏、秋の3回にわたる現地調査を実施。
  - ・池ヶ原湿原を彩る草花、木々、生物について魅力を体感する。
  - ・パトロール、バリアフリー化の要請などの池ヶ原湿原を広げ守る活動について学ぶ。
  - ・獣害やヨシによる景観の悪化という課題があることを知る。②では、立命館大学寺脇教授、ゼミ生のみなさんとのオンライン交流を実施。（寺脇教授のゼミでは、ヨシストローの社会実験を行っている。本校児童が、ヨシストローについてインターネットで調査している時に、見付け、依頼し、交流につながった。）
  - ・ヨシストローの社会的側面と経済的側面を学ぶ。「海洋プラスチックごみ問題の啓発につながること」「コスト面では複数回使う必要があること」などを学ぶ。
  - ・ヨシストローの作り方を知る。→後日、児童がヨシストロー作りを実施。試作品が完成。
- ⑤調査報告として「池ヶ原湿原の魅力と課題」「ヨシストローによる持続可能な社会に向けた環境保全」について発信できるようにプレゼンテーションにまとめる。その後、様々な場で、発信する活動を実施。
  - 12月：飛騨市探究フェスにて飛騨市民に発信（飛騨市図書館）
  - 2月：勝山市立平泉寺小学校とのオンライン交流にて発信
    - ：学習発表会にて宮川町民に発信（宮川小学校）
  - 3月：飛騨市長に調査報告
- ⑥ヨシストローを今後どのように生かすか、ヨシをどのように有効活用し、環境保全の発信につなげるのかが課題にあがる。→ヒンメリづくりや、発信方法の工夫を今後、行っていく。

## 探究を通しての児童の変容

- ・地域について目に見えるところのみではなく、地域のために努力し、ふるさと宮川を大切にしようとしている人たちに出会い、思いに触れることで、目に見えない「人の思い」にふるさとの魅力を感じる児童が増えた。この受け継がれる「人の思い」を残し、伝えることの大切さを学ぶことができた。
- ・地域にあるものを用いて、新しいことができないかという視点をもつことができた。また、「創造」のためには、自分たちでふるさとに関わり、ふるさと以外のところからも学びを得ていくことの大切さを感じる事ができた。

## 3 事業の成果等

### 子供たちに付いた力

校区にある資源を活用することで環境問題の解決に向かうことに気付き、自分たちで何ができるか考え、先行実施機関に学びながら、地域のみなさんと一緒に地域資源を活用した環境保全に関する活動を実践できるように発信する力。

### 今後の方向

池ヶ原湿原のヨシの有効活用による環境保全の在り方を探る。ヨシストローやヒンメリづくりを継続しながら、池ヶ原湿原の魅力の発信と、環境保全の重要性を伝える活動を行う。



## 21 下呂市立馬瀬小学校

主な実践内容 (複数可)	①防災活動、②健康安全に関する活動、③奉仕や福祉に関する活動 ⑤SDGsに関する活動(目標11:住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学校行事、学級活動の時間

### 1 活動テーマ

ふるさと馬瀬の良さや課題に気づき、自分達に何ができるかを考え、低学年や保護者、地域住民の方への発信・提言を行ったり、具体的なアクションを起こせる児童の育成

### 2 主な活動内容

- 毎月1回、1分間のシェイクアウト訓練の実施
- 年3回(4・9・1月)の、命を守る訓練の実施(災害発生のシチュエーションをその都度変えて行う)
- 5・6年生総合的な学習のテーマ「共生社会の実現」における体験活動
  - ・高齢者疑似体験学習の実施(6月)
  - ・地元デイサービスセンター「つつじ苑」を訪問しての、施設利用者さんとの交流(6・12月)
  - ・運動会(マゼリンピック)での地域種目「馬瀬民逃げ中」の企画、準備、練習時におけるCS会員さんとの協働活動
- 3・4年生総合的な学習のテーマ「馬瀬の歴史・自然を知ろう」における体験活動
  - ・地元有識者を招いての「馬瀬の歴史と民話を学ぶ」学習(5月)
  - ・地元漁業協同組合と連携しての稚鮎放流体験活動(6月)
  - ・地元太鼓指導者を招いての「馬瀬・数河太鼓について学ぶ」学習(9月)
  - ・県農林事務所事業と連携した森林教室(8月:木や森の働きを知る、10月:馬瀬川の源水地を探る)
  - ・他県交流学級(松本市立波田小4年1組)とのオンライン交流による、「馬瀬の歴史や自然」についての自分達の学びの発信
- 学習発表会における、自分達の学び(気づき・考え・実践する)の中間発表(発信・提言)
- 下呂市社会福祉協議会萩原支部と連携しての、赤い羽根共同募金活動の計画・実行(12月)

### 3 事業の成果等

#### 子供たちに付いた力

- ・総合的な学習の時間におけるテーマ追究において、自分達が調べた事や体験した事をもとに、自分達で気づき、考えた事を実践し、学びをより深めると共に、学習発表会やオンライン交流で、聴き手によりわかりやすい工夫ある発表ができた。(プレゼン力の高まり)
- 例1:「共生社会の実現」において、高齢者疑似体験学習をしたり、つつじ苑での利用者交流をしたりした高学年が、どのような活動を仕組んだらお年寄りの方々に喜んでもらえるかを考え、お年寄りの方々に負担なく一緒に楽しめる遊びを計画・準備・実行したり、手作りのプレゼントを持参したりして、つつじ苑を再度訪問し、交流をより深めることができた。相手を思い遣る気持ちや、それを具体的な形(声・表情・姿など)で届ける実践力が高まった。
- 例2:「馬瀬の歴史・自然を知ろう」において、馬瀬川の鮎が品評会で1位になったことや自分達が田植えや稲刈りをして育てたお米が米食味分析鑑定コンクール国際大会で金賞を受賞したことと関連付けながら、馬瀬で育てた鮎や米が素晴らしいのは、水がきれいであること、きれいな水を保つために環境(森林など)がしっかりしていることに気づき、それらを守り育てていく事の大切さを知り、環境保全のためのポスター作りなどを手掛けたり、他県交流学級の児童へオンライン交流でふるさと馬瀬の魅力と合わせて発信することができた。
- ・命を守る訓練や、月1のシェイクアウト訓練を通して「自助」「共助」の意識や行動力が高まった。

## 今後の方向

- ・今年度と同様に、青少年赤十字の理念と本校で目指す児童会スローガン（本年度は「自ら挑戦し、みんな笑顔で、毎日が楽しい馬瀬小」）を連動させながらみんなが幸せになるために自分(達)ができることを教科学習や特別活動など、教育課程全般において実施していく。
- ・総合的な学習の時間のあり方を、極小規模校の利点も生かしながら、ふるさと馬瀬の魅力をより深く追求し、その良さや課題・改善案を発信できる「ふるさと大使」を目指しての、個別テーマ追究型の探究方法へ次年度より変えていく。その中で自分で気づき、考え、実践できる力や、特に相手に自分の追究したことをわかりやすく説明するプレゼン力をより高めていく。
- ・「自分の命は自分で守り切る（自助）」意識や行動力をより高めていくための「命を守る訓練」やシェイクアウト訓練などの更なる工夫を重ねていく。



5・6年総合：高齢者疑似体験学習



5・6年総合：つつじ苑利用者との交流



5・6年総合：運動会地域種目の企画



3・4年総合：馬瀬の歴史と民話を学ぶ



3・4年総合：稚鮎の放流体験活動



4年総合：他県校とのオンライン交流



5・6年総合：学習発表会での発信



赤い羽根共同募金贈呈式



第3回(9月)命を守る訓練



## 22 下呂市立竹原小学校

<b>主な実践内容 (複数可)</b>	①防災活動（シェイクアウト訓練、防災学習） ③奉仕や福祉に関する活動 ⑤SDG sに関する活動（環境学習、ふるさと学習）
<b>教育課程上の位置付け</b>	総合的な学習の時間、業間、課外（地域学校協働活動）

### 1 活動テーマ

「知ろう!」「考えよう!」「やってみよう!」ふるさと竹原

### 2 主な活動内容

#### 【シェイクアウト訓練（全校児童）】①防災活動

- ・自治体（県や市）の訓練に合わせ、全校で実施
- ・訓練の前後には、「自分の命は自分で守る」をキーワードに、「どんな時に、どんな状況になったら、どんな避難行動をとるのか」を児童自身に考えさせた。



シェイクアウト訓練

#### 【防災学習（4年生）】①防災活動

（災害の種類）

市の危機管理課防災担当の方を招き、下呂市や岐阜県で過去に起こった災害を例に、災害の種類を学んだ。

（水害・土砂災害について）

土砂災害の被害の様子、学校周辺や児童の自宅周辺のハザードマップでの災害発生危険度、避難の際に大切にすること等を学んだ。



防災士から学ぶ

（地震災害について）

防災士を招き、地震時の際に危険となる箇所や被害を防ぐ対策を学んだ後、校舎内や自宅の危険箇所を調査した。



お年寄りの大変さを体験

#### 【福祉学習（3年生）】③奉仕や福祉に関する活動

（「福祉」って何だろう）

社会福祉協議会の方を講師に、「福祉とは何か」を考えたり、身近な福祉活動の例（高齢者福祉、障害者福祉）を学んだりした。

（「ふれあいサロン」への参加）

高齢者福祉の例として、学校近くの公民館で行われているボランティア活動「ふれあいサロン」を見学し、活動の内容や意義を知った。自分たちにも何かできることはないだろうかと考え、お年寄りの方が楽しめるゲームを企画準備し、サロンの一部で行った。



ゲームでお年寄りと交流

(手話体験)

市内在住の聴覚障害の方と市福祉課の手話通訳職員を招き、聴覚障害とは何か、聴覚障害の方はどんなことに困っているのか、手話について、等を学んだ。簡単な手話を覚える体験も行った。



点字を打つ体験

(点字体験)

隣市の点訳サークルの方を招き、視覚障害の方の困り感、点字の仕組み等について学んだ。点字器を使い、点字を打つ体験も行った。

### 【環境学習 (5年生)】⑤SDGsに関する活動

(稚鮎の放流体験)

地元漁協の協力のもと、学校近くの竹原川に稚鮎の放流体験を行った。漁協の方に、漁協の取組や、取組に込めた願いなども話をしてもらった。



稚鮎の放流

(カワゲラウォッチング)

地域の川の環境調査活動として、県の環境課協力のもとカワゲラウォッチングを行った。水生昆虫の種類から、児童が予想していた通り予想通り良い水質であったが、意外にゴミが多いことに気づいた。



白草山登山

(白草山登山)

地域有志の方が地域学校協働活動(課外活動として土曜日に実施)として、地元の市や草山登山活動を実施。学級の約半数の児童とその家族の総勢40人程が参加し、地域の自然の豊かさを体感した。

## 3 事業の成果等

子供たちに付いた力

### ①防災活動

地域社会における災害及び防災(安全を守る工夫や努力)を知り、自他の身を自然災害から守るための努力をしようとする意識が高まった。実際に地域の避難経路や危険個所を確認したり、家庭で防災グッズを備えたりする行動も見られた。

### ③福祉に関する活動

身の回りにどのような福祉課題があり、どのような活動が行われているかを知り、課題解決のために自分たちはどのようなことができるのかを考え、実践することができた。

### ⑤SDGsに関する活動

様々な活動を通して地元竹原の自然や自然を生かした活動、活動を支える人々の努力や工夫を知ることができた。その中で、環境に関する課題に気づき、ごみの減量などの行動に移す児童も現れた。

今後の方向

防災、福祉、環境ともに、課題や実際の活動について学ぶことを通して、自分たちにもできることはないだろうかと考え、地域でどんどん実践していきたい。



## 23 岐阜市立藍川北中学校

主な実践内容 (複数可)	⑤ SDGs に関する活動 (目標 No.11 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動の時間

### 1 活動テーマ

藍川大家族で住み続けるまちづくり

### 2 主な活動内容

SDGs が生まれた経緯や17の目標、現状について知る。さらに自分たちが生活する地域ではそれらをどのように実現していったらよいか、持続可能な地域づくりについて、個々が課題を持ち、情報収集を行い、レポートを作成する。その成果は学習発表会で交流する。

また、地域の小学校と合同で様々な行事を、地域の方の協力を得ながら進めていくことを通して、地域との一体感を高め、住みよく、安全なまちづくりを目指していく。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>社会における課題とSDGsのつながりを知り、「持続可能な世界を築くために、自分ができることは何か」を考えることで、SDGsを自分事としてとらえなおすことができた。また、身近なところから取り組むSDGsを考えたことで、地域のために貢献したいという意識を持つことができた(11住み続けられるまちづくりを)。</p> <p>地域の小学校の児童と共に取り組む行事(防災学習)では、地域の日赤奉仕団や水防団の方などの地域の方の協力を得ながら、地域の方との一体感を高め、自ら地域を構成する人としての素養を育成することができた。</p>
今後の方向	<p>今後も持続可能な地域づくりを目指すための素養を育成していくために、地域とSDGsをつなげて考える意識を高めるとともに、小中合同での活動や地域の協力を得た活動を行っていき、【藍川大家族】の意識を培っていきたい。</p>



## 24 山県市立高富中学校

主な実践内容	防災活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動の時間

### 1 活動テーマ

「話そう！語ろう！備えよう！私たちの防災教育」

～ふるさと高富を知って、考えて、そして、守ろう私たちの命！～

### 2 主な活動内容

- ・キックオフの会
- ・命を守る訓練
- ・5校区の会（地域との連携）
- ・小中合同引き渡し訓練
- ・防災研修（防災士による研修：DIG）
- ・家庭の防災教育（家庭教育学級とコラボ、家庭での取組）
- ・シェイクアウト訓練
- ・避難所開設 1年生：災害用トイレの設置と利用、備蓄倉庫見学（市職員防災担当）  
2年生：三角巾を使った応急処置の仕方について（日本赤十字社）  
3年生：毛布を使った傷病者の搬送、保温方法について（日本赤十字社）
- ・緊急地震速報対応訓練

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	ふるさと高富、特に自分たちの住む5校区（高富・富岡・桜尾・梅原・大桑）の特色に気付き、自他の命を守りきるための根拠ある行動様式（安全な通学路、避難行動等）を考え、自ら実行することができる力。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校応援団本部（学校運営協議会）を中心とした、地域連携による教育活動の推進</li><li>・生徒が地域の一員としてできることを考え、自ら行動する実践力の育成</li><li>・自分の住む地域（5校区：高富、富岡、桜尾、梅原、大桑）に対する理解と自他の命を守るために必要な行動を見出す力の育成</li><li>・自分たちの住む地域の防災訓練への積極的な参加</li></ul>



## 25 山県市立伊自良中学校

主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDG sに関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、美術、学級活動

### 1 活動テーマ

授業「柿渋染めで染めよう」で作った手ぬぐいを、老人福祉施設のお年寄りや希望が丘特別支援学校の仲間にプレゼントしよう。

### 2 主な活動内容

校区である伊自良地区で「伊自良大実柿」という渋柿が、地元住民の手によって半世紀ぶりに復活し「伊自良大実連柿(干し柿)」「柿渋染め」として多くの人々の手に渡っている。

復活に携わった方の思いや製品のよさを理解し、「柿渋染め体験」により制作した製品を老人福祉施設や長年交流している特別支援学校の仲間に送る活動を設定する。活動を通して、伊自良地区に生きる一人として、地域創生や福祉という視点から、自分に何ができるかを考え、発表することができる。

### 3 事業の成果等

#### (1) 地域創生の視点から

##### ①美術の授業

【受け継ぐ伝統と文化】(2年生 単元「伝統工芸の技と心を知る」)

10月10日(火)の授業で、美術作品に受け継がれてきた美意識や、伝統や文化のよさを感じ取り、美術文化の継承と創造について考えた。

【染めの味わいを楽しむ】(3年生 単元「私の色 みんなの色」)

11月13日(月)、染色の技法を生かして表現することに関心をもつことをねらいとして授業を行った。伊自良の伝統工芸である柿渋染めを体験するにあたり、活動内容を具体的にもつことができた。

##### ②働く大人の講演会(1年生)

10月16日(月)に、「働く大人の講演会」を実施した。1年生で、伊自良で柿渋染めをしておられる加藤慶さんから、柿渋染めの魅力、仕事の選び方やこれからの時代の働き方などについて話をいただいた。地域の伝統文化について知るきっかけとなった。また、働く意義について考えたり、自分の将来像を描いたりする機会となった。



### ③職場体験学習（2年生）

10月26日（木）、27日（金）の2日間、2年生が職場体験学習を行った。地域の事業所や公共施設に少人数に分かれ、各担当者から仕事について話を聞いたり、実際に仕事を体験したりした。加藤 慶さんお柿BISHIにも、数名が体験に訪れ、柿渋染め体験をした。加藤さんの伝統文化継承への思いに触れ、体験を通して働くことの苦労ややりがいについて体感することができた。



### ④柿渋染め体験（3年生）

11月21日（火）、柿BISHI代表 加藤 慶さんを講師に、伊自良大実柿を用いた「柿渋染め」の体験授業を3年生対象に行った。加藤さんに、柿渋染めに携わるに至った経緯や、伝統文化の継承への思い等についてお話いただいた後、生徒は、白い手ぬぐいにしぼりの加工を施し、3種類の染め液から好みのものを選んで染色作業を行った。ひとり2本の手ぬぐいを柿渋で染め、そのうち1本を地域の老人福祉施設の皆さんにプレゼントした。キャリア学習とふるさと教育の両面で意義ある体験となった。



#### 【体験後の生徒の感想】

私は初めて柿渋染めを体験してみて、自分にしか作れないオリジナルのものを作れるところがとても魅力的だなと思いました。柿渋は、とても長い間たくさんの方の支えによって受け継がれてきたものだ聞いてとても驚きました。1000年も前からあるものだと知って、柿渋染めってすごいなと思いました。伊自良にはこんなにも魅力的な伝統文化があるということ、今日の体験を通して学ぶことができました。伝統文化を私達も受け継いでいけるように、地域の活動や伝統文化に積極的に触れていきたいと思います。楽しい体験ができてとてもうれしかったです。

### ⑤特別支援学級 生活単元の授業

#### 【洗濯をしよう】11月28日（火）

特別支援学級の生徒が、生活単元授業の一環として、柿渋染めの手ぬぐいを洗濯し、乾かすために干す作業をした。柿渋染めの風合いや絞りのデザインのよさを味わいながら、作業ができた。

#### 【アイロンがけをしよう】12月6日（水）

生活単元の授業の一環として、洗濯した柿渋染めの手ぬぐいにアイロンをかけた。絞りの風合いや色味を損なわないように、気を付けて皺を伸ばし、贈り物としてふさわしいものになるよう準備をした。



## (2)福祉・交流の視点から

### ①特別支援学校「岐阜希望が丘特別支援学校」とのふれあい活動

本校と岐阜希望が丘特別支援学校との交流事業は、30年以上続くふれあい活動である。交流の中で互いを知り親交を深め、共に助け合う精神や相手を思いやる心を育ててきた。コロナ禍においてはリモートでの交流活動が中心となっていたが、令和5年度は、3回の交流のうち2回の対面交流が実現した。

第1回目の交流は、全校縦割り班で、リモートでの交流を行った。3年生が計画・運営の中心となり、笑顔あふれる交流となった。第2回の交流会では2年生が、第3回の交流会では1年生が、学年単位で岐阜希望が丘特別支援学校を訪問した。2年生の訪問にあたっては、事前に岐阜希望が丘特別支援学校より先生をお招きして、学校の様子や学んでいる子どもたちの学習や生活の様子についてお話していただいた。交流の際に、共に活動を楽しめるようにするためには、どのような工夫があるとよいか、ヒントを教えていただいた。だれにとっても楽しめるゲームを準備し、交流を企画した。当日は両校の生徒が共に楽しめる交流会をつくりあげることができた。



### ②地域の方に見守られて活躍する体育祭、音楽祭

体育祭、音楽祭とも、伊自良南北小学校高学年と合同で開催した。中学生と小学生と一緒に競技に参加したり、中学生が保育園児の種目の補助をしたりした。

また、体育祭、音楽祭とも、地域の老人福祉施設の皆さんを招待し、子どもたちの活動の様子を参観していただいた。学年、学校の枠を越え、地域の縦のつながりを大切にした行事となった。



### ③柿渋染め製品を贈呈

1月末に、特別養護老人ホーム 山県グリーンビレッジと、岐阜希望が丘特別支援学校を訪問して、柿渋染めの手ぬぐいを贈呈した。生徒が、伊自良の伝統文化である柿渋染めや、制作にあたっての思いを伝えながら手渡した。

今後1年間の活動を振り返り、自分が学んだことや成長したことをまとめて、今年度の活動を締めくくる。

#### 子供たちに付いた力

地域伝統文化の素晴らしさや継承の値打ちについて知り、伊自良地区に生きる一人として自分の生き方を考えることができる。

#### 今後の方向

地域創生と福祉という視点から、今後も地域の保育園等、柿渋染めに係わる体験学習と他の福祉施設との交流の充実を図る。



## 26 大垣市立東中学校

主な実践内容 (複数可)	SALASUSU 中高生向けスタディツアー型学習プログラム ～社会起業家の考え方や行動を学び、社会課題の解決を目指そう～
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 (キャリア教育)

### 1 活動テーマ

SDGsの「貧困」に関する課題

社会起業家の考え方や行動を学び、社会課題の解決を目指す

### 2 主な活動内容

SDGsの「貧困」に関する課題について、カンボジアの現状から考え、長年カンボジアで農村の女性たちの教育に携わってきた SALASUSU の活動を知り、現地の方との交流を通して、社会課題の解決に向けて中学生の自分たちができることを考える機会とする。

#### 活動内容1

SDGsの「貧困」に関する課題について、カンボジアを例に世界の現状を学んだ。図1に示すように、カンボジアの現状を日本と比較しながら学ぶ機会となった。自分たちの生活とカンボジアの農村での生活を3DVR映像で見比べる中で、「貧困」という課題の状況を生徒は実感した。また、カンボジアの農村部で暮らす方のインタビュー映像から、「貧困」という課題の本質に教育を平等に受けられない現状があることなどを学んだ。さらに、そのような状況の解決策として、青木さんが立ち上げた、働く場所と教育を受けられる場所を作るための場としての SALASUSU という企業の存在を知り、「貧困」という課題の解決に向けて自分たちも行動しなければならないと考える機会となった。



図1 学習で使用した資料や3DVR

#### 活動内容2

活動内容1を通して考えたことや疑問に思ったことなどを、カンボジアの SALASUSU の工房で働く現地の方や、SALASUSU の創設者である青木さんにオンラインでインタビューし、実際の思いを聞く活動を行った。そこから、「貧困」という社会課題と自分たちの関係を改めて認識する機会となると同時に、「貧困」という社会課題の解決に向けて中学生の自分たちができることを考える機会となった。生徒は図2に示すような考えを持つようになった。

生徒 A

教育と工房が一緒になっていて、教育が受けられないことが貧困の大きな原因になっているため、とてもすばらしい取り組みだと感じました。また、貧困がさらにひどい国が世界には数多くあるため、日本に住む自分達が募金という形でまずは支援に参加していきたいと考えました。

生徒 B

オンラインでの交流を通して、貧困のつらさが改めて実感できました。そのため、SALASUSUの活動が工房だけでなく、子供のための施設でもあることを知り、とても重要な活動だと感じました。社会問題を解決するためには、今回のように実情を知り、実際に現地の人と交流することも必要だと感じました。さらに、この「貧困」という問題について調べ、行動したいと思いません。

生徒 C

カンボジアでは困っている人もたくさんいるけれど、その分みんなが助け合っていることがよく分かりました。貧困の中でも、仕事にやりがいを持ち働かされている姿がすばらしいと感じました。貧困に関して、困っている人が多くいることは知っていましたが、今回の交流を通して、大変な状況の中でも仕事や生活に誇りをもち、助け合っている生活していることを改めて知ることができました。自分自身も、このような交流の機会を大切にして、募金などできることを少しずつ実行していきたいです。

図 2 生徒の講義後の意見

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	貧困という社会課題への理解力、課題の解決に向けた行動を模索する力
今後の方向	以下の 3 点を行う。 1. 貧困という社会問題の解決のために行動する活動 2. 働くということを学ぶ活動 3. 卒業研究としての探求活動



## 27 大垣市立江並中学校

<b>主な実践内容</b> <b>(複数可)</b>	①防災活動 ②健康安全に関する活動 ③奉仕や福祉に関する活動 ④SDGsに関する活動（目標 No. 3 すべての人に健康と福祉を、目標 No. 5 ジェンダー平等を実現しよう、目標 No. 10 人や国の不平等をなくそう、No. 11 住み続けられるまちづくりを、目標 No. 15 平和と構成を全ての人に）
<b>教育課程上の位置付け</b>	総合的な学習の時間、学級活動、道徳

### 1 活動テーマ

江並中人権宣言を具現し、誰もが安心・安全に生活できる江並中

### 2 主な活動内容

- ・命を守る訓練①(火災避難訓練)
- ・ハートフル集会Ⅰ…地域の一員として奉仕活動に取り組む講師の方の行き方に触れ、自分達にできることを考える。
- ・シトラスリボンプロジェクト…1年生はコロナハラスメント、2年生はハンセン病、3年生はHIV・エイズについての知識理解を深め、誰もが安心して笑顔で暮らせる環境について考える。
- ・命を守る訓練②(シェイクアウト訓練)
- ・江並クリーン活動…校風活動を行う意味を理解し、学校内で活動を広げ、校風活動の範囲を地域へも拡大する。
- ・ハートフル集会Ⅱ…これまでの学校生活や行事を通して、身に付けたこと、学級で意識していることを全校に発表し、来年度に向けての意識付けを行う。
- ・命を守る訓練③(不審者対応)

### 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	日常生活や学校行事を通して、人との関わりを通して人権意識を高く持ち、自分達にはどんな行動ができるかを考え、実践することができた。
<b>今後の方向</b>	「江並中人権宣言」や各学級の人権宣言をもとに、他者理解・生命尊重・自己実現などの人権意識の向上を図る。



## 28 揖斐川町立揖斐川中学校

<b>主な実践内容 (複数可)</b>	⑤SDGS に関する内容 目標8 働きがいも経済成長も ③奉仕や福祉に関する活動
<b>教育課程上の位置付け</b>	2年生 総合的な学習の時間 (宿泊研修・職場体験)

### 1 活動テーマ

自分の意志で自己の進路を決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができる能力や態度の育成

### 2 主な活動内容

月	主な活動内容等
6月	若狭宿泊研修 (6/15 6/16) ・ 民宿での職場体験・民宿の清掃活動・海岸の清掃活動・漁師体験・漁師さんと語る会 若狭宿泊研修振り返り ・ 職場体験を振り返り、望ましい勤労観・職業観を育むとともに自己理解を深めた
9月	職場体験事前学習・マナーアップ講座 ・ 事業所、リーダーの決定 ・ 社会人として求められるルールやマナー (礼儀, 言葉遣い, 電話のかけ方) の事前指導
10月	職場体験直前学習 ・ 体験学習の意義や心構え, 態度, 服装, 持ち物などについて最終確認 職場体験 (10/18 10/19) ・ 町内外の 27 の事業所にご協力いただき職場体験を実施
11月	職場体験振り返り・感謝状の送付
2月	いびがわ学習発表会 (2/21) ・ 職場体験で感じたことや学んだこと, 自分の将来について考えたことなどをパワーポイントにまとめ1年生に向けて発信する。

### 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働く体験を通して、自己理解を深め、勤労観や職業観を身に付けた。</li> <li>・ 異世代とのコミュニケーション能力を高め、社会人として求められるルールやマナーについて学習した。</li> <li>・ 地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさや大切さに気づき、地元に対する愛情や誇りをもつことができた。</li> </ul>
<b>今後の方向</b>	<p>修学旅行では、東京でしか学ぶことができない文化、教育機関、大企業などについて学び、これからの社会で生き抜くために必要な力、今後の自分自身の生き方を見つめるきっかけとする。その後、将来設計を達成するための困難や課題、諸条件を理解し、それを克服するために努力し進路を決定していく。</p>



## 29 郡上市立高鷲中学校

主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 ② 健康安全に関する活動 ⑤ SDG s に関する活動 (目標 No.11 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動の時間 生徒会活動

### 1 活動テーマ

地域が誇る高鷲中生 ～高鷲を考え、高鷲で動く～

### 2 主な活動内容

(概要)

- ・高鷲町(郡上市)の魅力、行事、文化を知り、自分たちで何が出来るかを考え、保護者や地域の方を巻き込んだ活動、提案を**実践**し、魅力ある地域づくりに取り組むことが出来る。

(活動)

- ・たかすふるさと祭り出店 ・高鷲ジュニア文化祭企画運営 ・郡上おどり発表会参加 ・高鷲ぎゅっとTシャツ(高鷲地域Tシャツ)拡大 ・「第1回高鷲ふるさとDAY」の実施 ・学校花壇再生プロジェクトの実施
- ・郡上アイデアコンテスト参加(以下、今年度の提案内容)

A	ワクワク!スキー場でポイント大作戦!	B	高鷲観光客 年間130万人を目指して!
C	スポーツセンターに集え!スポーツを愛し自然を愛すもの	D	君とlovely恋のドキドキフォーチェンsweets
E	#タカスファミリー～タカスファミリー増加計画～	F	高鷲に色を付けよう!

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	地域に関わる様々な活動を通して、地域の中で自分たちにできることを考え、実行する力を高めつつある。
今後の方向	より一層、地域の方の思い、考え方を知り、地域に関わる活動の質を高める。

【参考】

- 5年度学校評価結果 一部抜粋(保護者、生徒、職員)

5 ふるさと(高鷲、郡上)への愛情			
評価項目	保護者	生徒	職員
ふるさとを愛する思いをもち、家庭で地域のことを話題にしたり、住民として地域のためになることをしようとしている。		地域の良さを知ったり、可能な限り地域の行事に参加したりしている。また出会った人に挨拶をしたりするなどし、高鷲・郡上を大切にしている。	地域の良さを教師自ら知るよう努力し、生徒が地域の良さを学んだり地域・人に関わっていきけるような学習や声掛けをしている。
とてもよ くでき ている	6.3	29.3	20
よくでき ている	18.8	41.3	60
まあまあ でき ている	56.3	22.7	10
あまりで きてい ない	16.7	6.7	0
まったく でき てい ない	2.1	0	10

- 令和5年度「岐阜県ふるさと教育表彰」 優秀賞 受賞

- 郡上の未来をつくるアイデアコンテスト 佳作受賞(上記提案 B, C, E, F)



## 30 白川町立黒川中学校

<b>主な実践内容 (複数可)</b>	① 防災活動 ② 奉仕や福祉に関する活動
<b>教育課程上の位置付け</b>	学校行事、総合的な学習の時間、学級活動の時間

### 1 活動テーマ

災害、危険回避のための行動と地域社会との共生の目指した活動の在り方

### 2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4月	キックオフの会(全校集会でJRCに加盟していること、赤十字の活動について紹介した) 命を守る訓練(各教室からの避難の仕方を一次避難、二次避難までの動きを考え、実行した)
5月	引渡訓練(緊急時の保護者の迎への連絡方法、引渡方法を確認、実行した) 地域貢献活動の在り方(地域の様子に気付き、今年度の地域貢献で実施する内容を考えた) 交通安全講習(自転車通学を中心に交通における危険を考え、実際に動きながら回避行動が取れるようにするとともに、地域の方に見守ってもらっていることに気付き、安全に登下校している) 動画撮影
6月	不審者対応訓練(不審者に出会ったときにどのように行動すればよいのかを考え、実行する) 地域貢献活動:地域の交通安全施設の清掃活動(交通標識やガードレールの清掃を行った)
7月	救急救命講習(倒れている人、苦しんでいる人に出会ったときにどのように行動すればよいのかを考え、試した) 映像資料・動画撮影 HUG避難所開設講習(学校が避難所として開設する際に避難する人のことを考え、どのように行動したらよいのかを教えていただいた) 映像資料
8月	通学路点検(保護者と一緒に通学路の危険箇所を気付き、危険回避のための行動を考えた) 地域貢献活動:夏祭りで太鼓披露(地域の行事に伝統芸能である太鼓を披露した)
9月	シェイクアウト訓練(防災の日に合わせて、シェイクアウト訓練を実施した)
10月	地域貢献活動:文化祭(地域に伝わる伝統芸能を地域の方に披露した)
11月	町が実施したシェイクアウト訓練に参加(広報無線の放送にしたがってシェイクアウト訓練を実施した) 命を守る訓練(予告なしで地震・火災に対する避難を実施し、どこにいたらどのように行動すればよいのかを考え、消防署の方から消火訓練、煙道体験を含めた避難の仕方、予防について指導をしていただいた) 映像資料・動画撮影 地域貢献活動:清掃等(地域にある伝統芸能会館である東座の清掃活動をおこなった)
12月	
1月	Jアラート対応訓練
2月	
3月	地域貢献活動:春祭り準備(地域の行事に向けて、踊りの練習や花飾りの制作を行う予定)

### 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	命を守る為に自分にできる事を考える機会を定期的に仕組むことで、自分の家や地域でできる行動の意識を高めることができた。また、地域のために中学生の立場でできる事を考え、実行することができた。
<b>今後の方向</b>	命を守る訓練を継続し、繰り返し自分や身の回りの命を守る為にとる行動を意識できるようにしたい。また、地域と共に歩みを進める中学校としての役割を考えていきたい。



## 31 羽島市立桑原学園

主な実践内容 (複数可)	①防災活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動の時間

### 1 活動テーマ

学校・家庭・地域の三者で学び合い、気づき、考え、実践する防災・減災学習

### 2 主な活動内容

#### (1) 命を守る訓練

- ・避難経路の確認
- ・引き渡し訓練
- ・水害時を想定した垂直避難訓練
- ・VRを活用した水害体験
- ・AED講習会
- ・防災・減災について学ぶ日（防災食、ハザードマップの確認、浸水実験）
- ・不審者対応訓練

#### (2) 登校の安全指導

- ・自転車の安全な乗り方、整備の仕方（後期課程）
- ・通学路の安全確認
- ・交通安全指導（3年）
- ・見守りボランティアの方への感謝の会

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な防災活動を通して、自分の身は自分で守る意識が高まった。</li> <li>・地区別などの縦割りで活動することで、上の学年が下の学年を補助したりリードしたりできた。</li> <li>・様々な災害や、対処法について理解を深め、行動に表すことができた。</li> <li>・通学路の確認をし、道路や用水路などの危険箇所に関心し、安全な登下校について考えることができた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域と協働して継続して行うことで、戸惑うことなく避難所運営ができる力を高められるようにする。また、多様な立場の人々が避難することを想定した訓練や、子どもたちの意見を生かした活動等を盛り込むことで、主体的な学びの場としていきたい。</li> </ul>



## 32 岐阜県立大垣桜高等学校

<b>主な実践内容 (複数可)</b>	①防災活動      ③奉仕や福祉に関する活動
<b>教育課程上の位置付け</b>	社会福祉基礎、介護福祉基礎、生活支援技術、介護総合演習

### 1 活動テーマ

福祉社会の課題の架け橋に～自ら考え行動できる人を目指して～

### 2 主な活動内容

#### (1) 障がい者雇用について学ぶ

1年生が障がい者支援施設に介護実習の事前学習を兼ね、障がい者雇用を積極的にされている企業の見学を行った。生活介護や就労継続支援A型・B型のサービスを提供されている施設で障がいのある方と関わる機会はあるが、一般企業で働いている様子を知るきっかけは少ないため、どのような配慮がされているか、福祉職としてどんな関わりをするとよいか理解することができた。この経験を障がい者支援施設での介護実習に活かしながら、利用者に関わることができた。

#### (2) 救急法と炊き出し訓練

地域の防災リーダーを目指して、日本赤十字社岐阜県支部と連携しながら2年生対象に救急法と炊き出し訓練を実施した。講習会の前に、各実習先(特別養護老人ホームや介護老人保健施設)での防災対策について調査した。高齢者施設は、災害時に福祉避難所としての役割を担うことになる。学校でも命を守る訓練(防災訓練)を実施しているが、施設も同様に防災訓練(水害訓練含む)の実施や備蓄品が何があるか知るきっかけとなった。介護実習期間中に防災訓練に参加させてもらった生徒もあり、職員として利用者をどのように誘導・声かけをするか、地域住民を受け入れるか実感することができたようである。その後、校内で炊き出し訓練と救急法を学びながら、実際の避難所の様子の話も聞くことができた。ハイゼックス袋を用いたお米の炊き方を体験する貴重な機会となった。さらに、ハイゼックス袋を用いたアイデア料理を一人ひとりが考えて、クラス内で交流した。



【搬送法の実践】



【三角巾を用いた止血法】



【お米入れ】



【米を炊く様子】

#### (3) 愛知県血液センターの見学及びウェルフェア 2023 参加

3年生が、愛知県血液センターの見学とウェルフェア 2023 に参加した。自主的に献血に行っている生徒や将来、看護師として医療分野で働きたいと考えている生徒もいるため、献血された血液が、どのような流れで患者様の下に届けられるのか理解する機会となった。また、介護分野でも時代に応じて介護ロボットが開発されていたり、ICT機器が導入されていたりする。最新の機器に触れながら、利用者理解を深めることができた。



【血液製造の見学】



【血液保管庫の見学】



【移動用リフト体験】

#### (4) 認知症サポーター養成講座

デイサービスセンターや特別養護老人ホーム等で介護実習を実施しているため、そこで出会う認知症高齢者の方との関わり方をより深めるために、講座を実施した。私達が普段生活している中でも、認知症高齢者を探す市内放送が流れたり、徘徊されている方に会ったりすることがある。今回は、認知症高齢者とどのように接するとよいかポイントを教えていただくだけでなく、見守りシールや認知症初期集中支援チームの役割等も教えていただいた。また、認知症予防のために開発された脳機能の低下を防ぐゲームも体験することができた。



【脳トレゲーム体験】



【認知症初期集中支援チームの説明】



【認知症予防トレーニング】

#### (5) ボランティア活動への参加

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを経て、少しずつコロナ前の日常生活が取り戻りつつある。それに伴い、ボランティア活動の依頼があり、参加をすることができた。高齢者施設における敬老会への参加、大垣市ボランティア連絡協議会発表会への参加、パラリンピック陸上競技全国大会への参加、一人暮らし高齢者の歳末清掃、歳末助け合い募金啓発活動などを行うことができた。活動を通して、施設の方、陸上選手やその家族及びスタッフ、地域住民の方々、ボランティア活動をされている方などと触れ合うきっかけとなった。



【歳末助け合い募金】



【敬老会への参加】



【パラ陸上大会参加】

### 3 事業の成果等

#### 子供たちに付いた力

- ・介護現場にICT機器が普及し、介助者だけでなく、利用者にとっての快適な支援とは何か考える力が身に付いた。
- ・障がい者理解を深め、障がいという枠で見るのではなく、一人の人として当たり前のように接することの大切さを身に付け、実践することができた。
- ・防災学習を通して、自ら考え、提案する力が身に付いた。災害時には、自分の命を守るだけでなく、避難所や福祉施設のリーダーとして積極的に行動できる人になるきっかけとなった。
- ・さまざまなボランティア活動を通して、いろんな世代の方々に関わるきっかけとなった。そこで、コミュニケーション力を身に付けることができた。

#### 今後の方向

今後はさらに、ボランティア活動の機会を増やしていきたい。また、今回の研究で得た成果が継続できるよう実習施設や地域、各機関と連携を深めながら、将来の地域の担い手として岐阜県の福祉社会のリーダーとなるよう体験的な学びを継続していきたい。



### 33 聖マリア女学院中学校高等学校

<b>主な実践内容</b> (複数可)	<ul style="list-style-type: none"><li>・フィリピンの子供たちの学費支援</li><li>・フィリピンの人たちへの物資支援 (タオル、石鹸、文房具など)</li><li>・ソフトコンタクトレンズケースのリサイクル活動</li></ul>
<b>教育課程上の位置付け</b>	・福祉と奉仕 ・国際親善活動

#### 1 活動テーマ

- ・まごころ募金
- ・物資集め
- ・ソフトコンタクトレンズケース回収

#### 2 主な活動内容

- ・福祉練成会に参加し、福祉とは・・・ということを知る
- ・「おにぎりデー」の継続
- ・ソフトコンタクトレンズケース集め、寄付
- ・家庭で使わない物資集めと輸送準備

#### 3 事業の成果等

<b>子供たちに付いた力</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・フィリピンの子供たちへカードや手紙を英語で書くことで、意欲的に楽しんでかくことができるようになった。</li><li>・開発途上国や、戦争に巻き込まれている人々への関心が高まった。</li></ul>
<b>今後の方向</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・募金、物資集めは継続していく。</li><li>・困っている誰かのために何ができるかを考えさせる。</li></ul>



# 34 飛騨学園 高山西高等学校

主な実践内容(複数可)	健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	特別活動、生徒会、保健委員会活動

## 1 活動テーマ

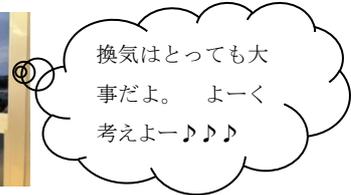
CO2 モニターを使用し、CO2 濃度の測定、PM2.5・PM10、HCHO・TVOC を休み時間ごとに各クラス保健委員が測定する。教室の窓とドアを全開にて「1分間換気」を呼びかけ、実施する。

## 2 主な活動内容

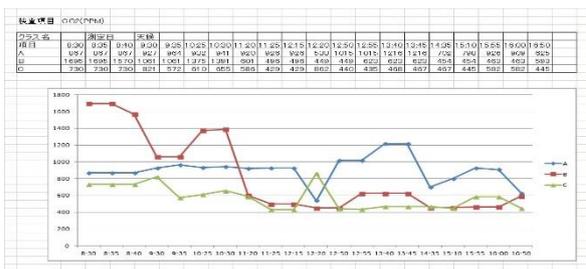
🌈🌈💡 CO2モニターで、換気効果を実感 🌈🌈💡

＜休み時間ごとに教室の窓と教室のドアを全開にする「1分間換気」を行っています。＞

CO2 モニターを使用し、休み時間（10分間）ごとに室内のCO2 濃度・PM2.5・PM10・HCHO・TVOC を測定しました。休み時間に教室のドアを全開にして「1分間換気」することで、教室内CO2 濃度を1,000PPM 以下に抑えることができました。

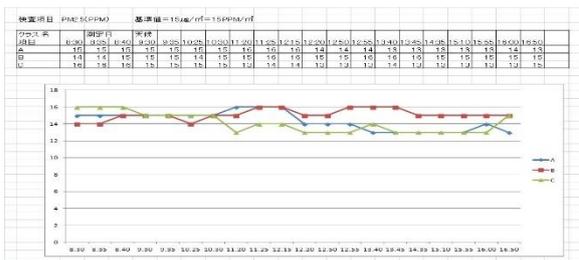


☆☆☆CO2 モニターから3クラスの休み時間ごとの測定結果をグラフにしました。



【CO2=二酸化炭素基準は1,000ppm 以下】

Bクラスでは、午前中の授業時間に基準値を上回っています。Aクラスは、午後の授業時間帯に上がっています。休み時間には下がっています。CO2 濃度が高くなると息苦しさや頭痛など色々な症状がでできます。十分な酸素が脳に供給されず、作業効率が低下します。休み時間の換気により、下がっています。Cクラスは、換気を常に意識し、窓を常時開けています。



PM2.5 と PM10 について

PM (Particulate Matter=粒子状物質) 2.5 と PM10 は、大気中を浮遊している大気汚染物質です。PM2.5 は粒子が小さいため、肺の奥まで到達し、人体に悪影響を与えます。各グラフでは、ほぼ基準値 (15PPM) の範囲で変化しています。

## 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	休み時間ごとには換気をする習慣。換気の大切さ、意識しての換気。CO2 モニターを利用、活用する習慣。
今後の方向	CO2 濃度の測定、PM2.5、PM10、HCHO・TVOC 測定する習慣、換気の大切さを意識し、様々な感染症予防対策に継続して実践する。安全・安心な教室環境作りの徹底。



## 35 岐阜県立下呂特別支援学校

主な実践内容 (複数可)	②健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	生活単元学習、日常生活の指導、自立活動、保健体育

### 1 活動テーマ

「身体を動かそう！～We can do it～」

月に一度の身体測定を通して自分の体調や身体の成長に気付くことができる。生活単元学習や保健体育の授業を通して健康的な体について考えたり、バランスの良い食事を心掛けたりすることができる。また、年間を通して朝運動(サーキットトレーニング)を実践することで、継続して運動することができる。

### 2 主な活動内容

#### (1)月に一度の身体測定(全児童生徒)

月に一度の身体測定を通じて自分の体調や身体の変化について考えた。定期的な身体測定(体重、身長、肥満度、BMI指数など)を行い、変化をモニタリングすることで、健康状態の把握、健康目標の設定や生活習慣の調整に役立てることができた。測定結果を記録し、学校医に相談することで、適切なアクションをとる手助けにもなった。さらに、肥満傾向の児童生徒に対しては、数値をグラフ化したり、家庭や栄養教諭と連携したりして、持続可能な生活習慣に気付くことができるようにアプローチを進めた。

#### (2)日常の運動(エクササイズやサーキットトレーニング)(中学部生徒)

中学部では日常生活の指導や保健体育の授業でエクササイズやサーキットトレーニングに取り組んできた。流行りの曲に合わせて身体を動かしたり、平均台や巧技台、エアートラックマットやジャンボボールなど様々な道具を活用して全身運動に取り組んだり、個々の実態に応じた取り組みを展開した。

#### (3)栄養教諭による栄養指導(高等部1年生)

高等部1年生を対象に栄養教諭による栄養指導を行った。バランスの取れた食事や栄養素の摂取量、個々の健康状態やライフスタイルに合わせた食事改善のポイントや適切な食材の選び方を学んだ。

#### (4)保健体育の授業における道具やルールの工夫(高等部)

高等部の保健体育の授業では、陸上競技や球技、レクリエーションスポーツなど様々な競技に取り組んできた。個々の特性に応じた道具やルールを工夫しながら計画し、展開してきた。特にバレーボールではビニールソフトバレーボールを使用することで、全員が意欲的に取り組むことができた。

### 3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>毎月の身体測定の結果から自身の身長や体重を意識することができるようになった。また、たくさん運動をしようとする動機づけにもなった。</p> <p>また、運動を継続して取り組むことで、運動量を確保し肥満傾向から改善した児童生徒もいた。さらに、様々な道具を活用し、いろいろな種目に触れ合うことで運動の楽しさを感じることができた。</p>
今後の方向	<p>特別支援学校の特性上、運動量の確保が少ない傾向にある。そのため、肥満傾向の児童生徒が多い現状である。今後も毎月の身体測定を継続するとともに家庭と連携を図りながら、健康の維持・増進を進めていきたい。</p>

